



# SUSTAINABILITY REPORT 2019

グッドホールディングスグループ  
サステナビリティレポート



# 捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。

少しずつ、創っていく。

その仕事は何であろうと。

どこであろうと。はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、

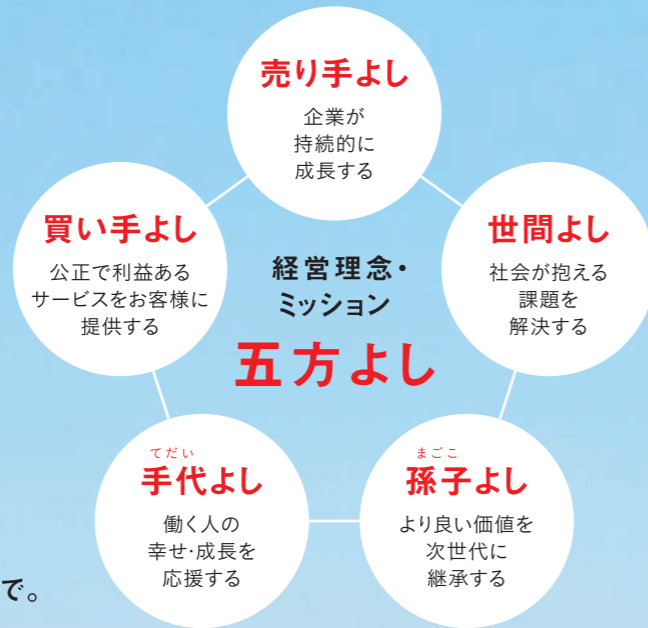
ちょっとだけ前に、

わずかだけ先に、進ませるものであると信じたい。

捉えよう。そこにある問題を、わたしたちにしかない目で。

応えよう。わたしたちにしかできない方法で。

超えていこう。今あるわたしたちの姿を。



## 行動指針

- 1 責任とプライドを持って仕事に取り組む**  
 お客様から報酬をもらっている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果(成果)を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む
- 2 自主性と協調性のバランスをとる**  
 「今、自分が何をすべきかを自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる
- 3 前向きにチャレンジする**  
 現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい(面白い)」という姿勢で取り組む
- 4 どんな状況にも適応する(適者生存 ≠ 弱肉強食)**  
 変化に敏感であり、過去の成功や失敗、慣習に囚われず、様々な難しい状況でも適応する努力を続ける
- 5 適正な利益を確保する**  
 われわれが責任を負う人びとの期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

## 目次

- 01 コーポレートメッセージ
- 03 トップメッセージ
- 05 価値創造/SDGsについて
- 07 グッドホールディングスグループ概要
- 09 財務・非財務情報
- 10 [特集] 新入社員座談会  
2050年 50代の私たちの、時代と仕事
- 13 2018年度トピックス
- 14 株式会社リヴァックス  
乾燥プラント設備火災について
- [事業紹介]
- 15 株式会社リヴァックス
- 21 株式会社リリーフ
- 25 株式会社ダイキョウクリーン
- 27 株式会社大栄/株式会社大協
- [CSR活動]
- 32 経営・ガバナンス
- 37 環境
- 41 人権・労働慣行
- 46 コミュニケーション
- 54 ISO26000対照表/編集方針

## グッドホールディングスグループ セーリングチーム 全日本実業団選手権(スナイプ級) 初優勝!

2018年10月25日~28日に茨城県霞ヶ浦セーリング特設会場で開催された『第64回全日本実業団選手権大会』にて、創部以来目標としていた『優勝』を出場4回目にして成し遂げることができました。この大会は、全国各地の予選を勝ち抜いた実業団18チーム計36艇が出場し、当社チームからは『河野(リリーフ)・田辺(ダイキョウクリーン)組』、『森谷(リヴァックス)・山本(大栄)組』の2艇が出場しました。

最終レースでは1~4位までが僅差の中、初優勝へのプレッシャーをはねのけ、2艇が1位、4位フィニッシュと会心のレースで団体優勝を決め、また個人成績でも『河野・田辺組』が総合1位となり、初優勝に花を添えました。

このような活気溢れる活動が、企業はもとより地域全体を盛り上げるための一助になればという想いで、今後も更なる高みを目指して努力してまいります。



# 環境ビジネスは、 社会の課題を解決する事業。 私たちにとって、 SDGsは「働くこと」そのものです。



グッドホールディングス株式会社  
代表取締役社長

赤澤 健一

## 産業界の社会基盤として 時代に求められるサービスを展開しています

グッドホールディングスグループは、日本の経済成長とともに「その時代が抱える社会的課題を解決する」ことを事業とし、成長してまいりました。その原点は、高度成長期の日本社会が直面した「ごみ問題」を解決するために手がけた廃棄物処理事業です。その後、約60年にわたりリサイクル、リユース、清掃、おかたづけなど、時代による社会の課題を的確に「捉え」、その解決策となる事業を展開することで社会や顧客に「応え」、仮説検証を通じてさらなる期待を「超えていく」という企業姿勢を成長の軸としております。これが、「捉える、応える、超えていく」というコーポレートメッセージに託された、創業以来一貫して受け継ぐ想いです。

2015年にはホールディングス体制に移行し、グッドホールディングス株式会社のもとに、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄、株式会社大協の6社体制といたしました。グッドホールディングスグループは、グループ各社ごとに異なるマーケットで事業を展開しておりますが、2018年度は、いよいよ各社がその事業基盤を確実なものとし、さらなる成長に向けて足並みをそろえて力強く歩き出した年であったと感じております。6社の経営資源が有機的にかわり合い、グループとしてビジョンを共有しながら同じ方向をめざして展開することができました。2019年度につきましては、既存事業を着実に成長させつつ、全事業において黒字化をめざしていく所存です。

## SDGsに根ざした事業として 機能しながら成長をめざしています

2015年に開催された「国連持続可能な開発サミット」で掲げられた持続可能な開発目標（SDGs）には、エネルギー問題や環境問題、働きがいなども目標として掲げられています。グッドホールディングスグループは、創業以来「社会の課題を解決する」ことをミッションに「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3Rをグループ会社でサポートしており、事業を展開するにおいてSDGsはごく自然につながるものです。

私たちにとっては「働くこと」がイコールSDGsでもあります。例えば、株式会社リリーフの「おかたづけ事業」は、不用品のおかたづけのお手伝いから「終活」という社会問題に切り込み、さらに廃棄物を増やさないよう回収した不用品をそれらが必要とされる海外へリユースするという、地球規模でのモノの循環を実現しています。

また、株式会社リヴァックスは、近年、資源循環と再生可能エネルギーに貢献してまいりましたが、2018年度はさらに「食品ロス」といった現代社会の抱える大きな課題に取り組み始めました。「働き方改革」についても、「当然のこと」として取り組んでおります。グループ役員連絡会・コンプライアンス委員会を毎月開

催し、問題を把握・整理し、役員全員で共有しPDCAを徹底して対策を行っております。2018年度はアルバイトの正社員登用も積極的に行い、安心して働ける環境づくりを推進いたしました。

また、株式会社大協が2017年度にスタートさせた人材派遣・紹介事業「Gcareer（ジーキャリア）」は、業界の人材不足を解決するだけでなく、自社でこれまで培ってきた人材育成の取り組みが活きる事業であると考えております。既存事業で長年培った研修カリキュラムを活用し、環境ビジネスドライバーを業界他社に派遣しておりますが、将来的には「人材派遣」という事業を通じて、業界全体の労働管理や働く環境改善に貢献できればと考えております。

## 経営理念・ミッション「五方よし」を次世代に 受け継ぎ、持続可能な社会に貢献します

2055年には世界人口は100億人を突破しますが、日本の人口は1億人を切り、その4割強が65歳以上になると言われています。そのとき、世界や日本はどうなっているのでしょうか。人口増加により世界中で海洋資源・農産物などすべての資源の不足が予測される中、生産人口も労働人口も減少する日本が生き残るには、「再生資源」や「効率的な社会」がこれまで以上に求められることになるでしょう。2055年と聞くとずっと先のこのように感じますが、今の新入社員はまだ50代の現役です。

当社の経営理念・ミッション「五方よし」とは、近江商人が商売訓としていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、事業に従事する社員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感できる「手代よし」、次世代への責任と持続可能な社会の構築への取り組みとして「孫子（まごこ）よし」を加えたものです。

環境ビジネスは、誰もが共生できる未来を創るビジネスです。私たちが約60年続けてきた環境ビジネスがSDGsで未来と世界につながり、そのスピリットを次世代に受け継いでいくこと。私たちは、これからも持続可能な社会をつかっていく企業集団として邁進してまいります。

### 株式会社リヴァックス 乾燥プラント設備火災のお詫び

2018年12月19日早朝、株式会社リヴァックスの自社乾燥プラント製品棟冷却装置内周辺で火災が発生しました。この火災につきましてはグループとして重大に受け止め、二度とこのような事故をおこさぬよう、原因究明を行い、対策を講じております。お取引先様、近隣住民のみなさまには、大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。詳細につきましては、P14に記載いたしました。ご一読いただけますと幸いです。

# グッドホールディングスグループは 事業を通してSDGs(持続可能な開発目標)の 実現に貢献しています



持続可能な開発目標 (SDGs) とは、人々の暮らしを持続可能とするために国際社会が2030年までに達成すべき課題を掲げた世界共通の国際目標です。2015年の9月、ニューヨーク国連本部で150を超える加盟国首脳に参加のもと開催された「国連持続可能な開発サミット」で、全会一致で採択されました。「誰も置き去りにしない」を共通理念に、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、17の目標と169のターゲットで構成されています。

国連に加盟するすべての国は、採択したアジェンダをもとに2030年までに貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くします。

グッドホールディングスグループは、事業を通してSDGsの実現に貢献してまいります。

## グッドホールディングスグループの取り組み

### 経営・ガバナンス

- 経営管理体制
- サステナビリティレポートの発行
- 内部監査部門による監査
- 法令順守
- 情報システムセキュリティ体制の構築
- 内部通報制度

5  
ジェンダー平等を  
実現しよう

8  
働きがいも  
経済成長も

17  
パートナーシップで  
目標を達成しよう

P32

### 環境

- 悪臭防止対策
- 水質汚濁防止対策
- 廃棄物の漏洩・流出防止対策
- エコドライブ
- ごみ排出量減量活動
- エネルギー使用量削減対策
- CO<sub>2</sub>排出量削減対策

3  
すべての人に  
健康と福祉を

6  
安全な水とトイレ  
を世界中に

7  
エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

9  
産業と技術革新の  
基盤をつくらう

11  
住み続けられる  
まちづくりを

12  
つくる責任  
つかう責任

13  
気候変動に  
具体的な対策を

14  
海の豊かさ  
を守ろう

P37

### 人権・労働慣行

- 労働安全衛生の取り組み
- 従業員持株会
- 制度にない人事の取り組み
- ワーク・ライフ・インテグレート
- 5S活動の推進
- 永年勤続者表彰
- ストレスチェック
- 健康診断の実施

3  
すべての人に  
健康と福祉を

4  
質の高い教育を  
みんなに

5  
ジェンダー平等を  
実現しよう

8  
働きがいも  
経済成長も

10  
人や国の不平等  
をなくそう

P41

### コミュニケーション

- 施設見学の受け入れ
- JICA研修の受け入れ
- チャイルド・ドリーム活動支援
- こども農業塾の開催
- 企業スポーツ活動
- セミナーの開催
- BCPの取り組み

4  
質の高い教育を  
みんなに

8  
働きがいも  
経済成長も

11  
住み続けられる  
まちづくりを

13  
気候変動に  
具体的な対策を

14  
海の豊かさ  
を守ろう

15  
陸の豊かさ  
を守ろう

17  
パートナーシップで  
目標を達成しよう

P46

# 「社会課題」を ビジネスで解決 私たちの事業の歩みと変遷

1960年に家庭ごみ・事業ごみ収集事業をスタートし、1974年には産業廃棄物処理業を開始。地球環境への配慮が世界的な課題となった2000年以降は、バイオマス燃料事業、海外リユース事業などにも事業を展開。私たちは廃棄物処理業の枠に留まることなく、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいます。



**グッドホールディングス  
株式会社**

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号  
代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一  
設立：1960年 資本金：77百万円  
従業員数：12名

---

**事業内容**

グループ財務・経理・人事・労務・  
広報、経営支援及び総合戦略の策定

**連結売上高 3,451百万円 ※1,2**

※1 単位未満切り捨て（特に断りのない場合、以降も同様）  
※2 収益認識に関する会計方針についてはP09をご参照ください

**グループ従業員数 255名 ※3**

※3 従業員数は常用雇用者（社会保険負担をしている者：従業員兼務役員除く）の数

<p><b>株式会社リヴァックス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物の収集運搬・中間処理</li> <li>各種施設の清掃・管理</li> </ul>	<p>所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 山本 英治 資本金：81百万円 従業員数：50名 売上高：1,360百万円</p>	<p><b>事業内容</b></p> <p>産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬 産業廃棄物の中間処理（破碎・乾燥） 飲料系商品のリサイクル 排水処理施設等の清掃・管理</p>
<p><b>株式会社リリーフ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おかたづけサービス</li> <li>海外リユース</li> </ul>	<p>所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 赤澤 正人 資本金：50百万円 従業員数：25名 売上高：410百万円</p>	<p><b>事業内容</b></p> <p>おかたづけサービス （遺品整理、残地物撤去） 海外リユース</p>
<p><b>株式会社ダイキョウクリーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グリストラップ清掃</li> </ul>	<p>所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 津田 政房 資本金：80百万円 従業員数：32名 売上高：329百万円</p>	<p><b>事業内容</b></p> <p>グリストラップや排水管を含む 水回りの衛生維持管理サービス</p>
<p><b>株式会社大栄</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>西宮市のごみ収集事業</li> </ul>	<p>所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 木村 裕之 資本金：10百万円 従業員数：81名 売上高：887百万円</p>	<p><b>事業内容</b></p> <p>一般廃棄物の収集運搬（西宮市） 産業廃棄物の収集運搬</p>
<p><b>株式会社大協</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伊丹市のごみ収集事業</li> <li>人材派遣業</li> </ul>	<p>所在地：兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号 代表者名：代表取締役社長 森下 和尚 資本金：6百万円 従業員数：55名 売上高：475百万円</p>	<p><b>事業内容</b></p> <p>一般廃棄物の収集運搬（伊丹市） 産業廃棄物の収集運搬 人材派遣・人材紹介</p>

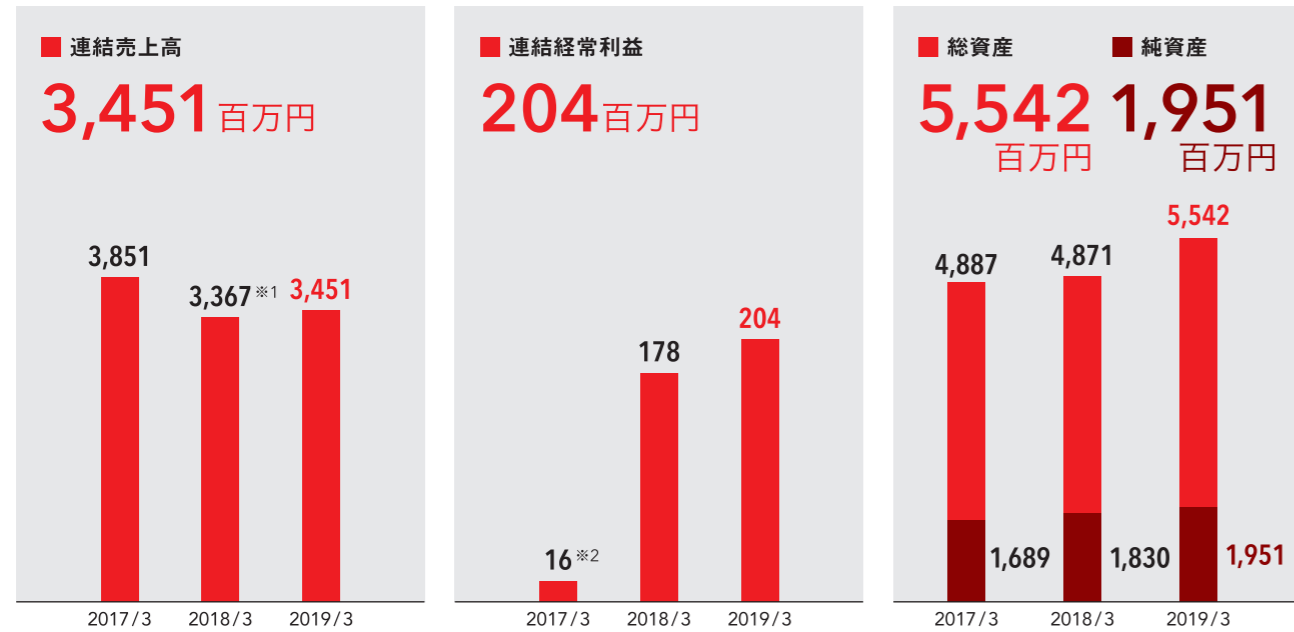
※すべて100%子会社（各社とも決算期3月末） ※2019年4月1日現在

## グッドホールディングスグループの歩みと 社会の変遷

<p>1953 創業者が廃棄物回収業を創業</p> <p>1968 有限会社大栄衛生を設立</p> <p>1974 大栄サービス株式会社を設立（リヴァックス）</p> <p>1976 有限会社大協工業所を設立</p>	<p>1984 処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に設置（リヴァックス）</p> <p>1999 同業他社との協調体制（アライアンス事業）構築（リヴァックス）</p>	<p>2006 産業廃棄物の破碎施設をリニューアル（リヴァックス） 大協工業所を株式会社に改組及び大協に商号変更</p> <p>2007 有機性産業廃棄物の乾燥処理施設が完成（リヴァックス） 同時にバイオマス燃料化事業を開始</p> <p>2008 廃棄飲料系商品のリサイクル事業のため、リバース・マネジメントセンター完成（リヴァックス）</p> <p>2009 大栄サービスの社名をリヴァックスに変更</p>	<p>2010 グリストラップ清掃事業を開始（ダイキョウクリーン）</p> <p>2011 おかたづけサービス事業を開始（リリーフ）</p> <p>2013 海外リユース事業を開始（リリーフ）</p> <p>2014 関東事業所を東京都足立区に開設（リリーフ） swell事業を開始（リヴァックス） バイオマスボイラーを新設（リヴァックス）</p>	<p>2016 リヴァックスホールディングスの社名をグッドホールディングスに変更</p> <p>埼玉県三郷市に関東事業所を開設（リリーフ、ダイキョウクリーン）</p> <p>2017 グループとして東京都千代田区に東京オフィス開設</p> <p>2018 愛知県名古屋市内に名古屋事業所を開設（リリーフ） 人材派遣・人材紹介事業（Gcareer）を開始（大協）</p>
1950-	1980-	2000-	2010-	2010-
<p><b>1960年代</b> 高度成長期</p> <p><b>1970年</b> 「廃棄物処理法」改正により、一般廃棄物と産業廃棄物という概念が誕生</p>	<p><b>1980年代</b> バブル経済</p> <p><b>1985年頃～</b> 家庭ごみの排出量が急増し始める</p> <p><b>1990年</b> バブル崩壊</p> <p><b>1995年</b> 「容器包装リサイクル法」制定</p> <p><b>1997年</b> 「京都議定書」 地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>等の削減率が定められる</p>	<p><b>2000年</b> 一人当たりの家庭ごみ（一般廃棄物）排出量が減少し始める あらゆる廃棄物においてリデュース、リユース、リサイクルを 主軸とした時代へ</p> <p><b>2001年</b> 「廃棄物処理法」改正により、 廃棄物処理のマニフェスト制度がさらに強化 コンプライアンスの遵守が重要視される時代へ</p> <p><b>2007年</b> 「改正容器包装リサイクル法」完全施行により、 さらに社会の「ごみの減量化」への意識が高まる</p>	<p><b>2010年</b> 「カンクン合意」にて、日本の温室効果ガス削減目標を 「2020年度までに2005年度比で排出量を3.8%削減」とする</p> <p><b>2010年</b> 孤独死者数が急増し、社会問題化</p>	<p><b>2015年</b> 「パリ協定」にて、日本の2030年度の温室効果ガスの排出を 2013年度の水準から26%削減することを目標とする</p> <p><b>2015年</b> SDGs（持続可能な開発目標）が策定される</p> <p><b>2018年</b> 食品ロスが社会問題に</p>

財務・非財務情報

財務情報 (単位: 百万円)



※1 収益認識に関する会計基準を変更し、一部の取扱高に対して手数料部分のみを売上とした。この影響による売上高の減少額は894百万円

※2 会計方針の変更により、減損処理や各種引当金を計上

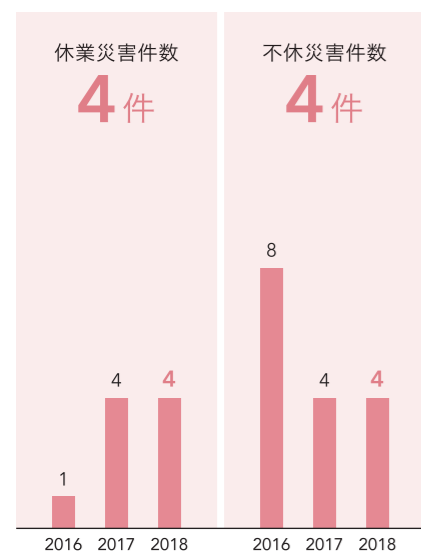


# 2050年 50代の私たちの、時代と仕事

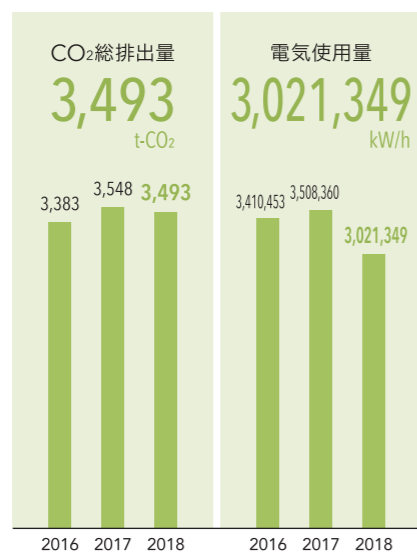
2050年。2019年度入社の新卒社員は仕事も子育ても現役まっただ中の50代です。  
そのとき、社会はどうなっているでしょうか。  
グッドホールディングスグループの未来と仕事について考えました。

非財務情報

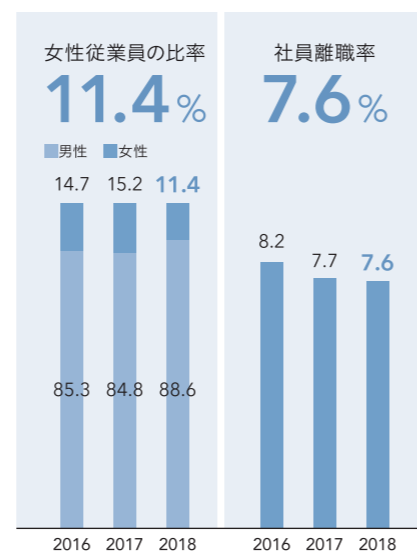
安全



環境



働きやすさ



未来の暮らしと社会をイメージして  
30年後の事業を考えよう

**赤澤**：30年先の2050年は、みなさん50代前半でまだまだ現役です。子どもは高校生か大学生、仕事も子育ても現役ですね。そのとき、どんな生活をしていきたいですか。  
**工藤**：私は安定した生活をしていきたいです。奥さんと子どもが2、3人いて、ちゃんと仕事があって、一軒家に住んでいきたいです。  
**赤澤**：家庭があって家は一軒家だと、お給料はどれくらいだろう。どんな生活がしたいのかを考えて、それを実現するためにはどうすればいいか。給料は仕事の価値によって変わるので、将来のイメージをもつことは大切ですね。  
**石川**：私は30年後も仕事を頑張りたいです。家庭はあればいいとは思いますが、それが絶対というわけではなくて。結婚してなくてもきちんと仕事をして幸せだったらいいと思います。  
**赤澤**：自分の仕事とポジションがあって、幸せな社会人でありたいということですね。

**田代**：私は、30歳過ぎぐらいに結婚したいです。前はもっと早く結婚したいと思っていたのですが、全然お金が貯まらないので(笑)。子どもは男女1人ずつ2人、2050年には高校生でしょうか。  
**鶴岡**：私も、家族があればいいと思います。子どもは2、3人いて、2050年には高校生か大学生だと思います。  
**小山**：私は、理想は、仕事せずに好きなゴルフとバイク三昧で暮らしていれば幸せです(笑)。でも、長男なので今住んでいる家を守りつつ、親の面倒を見る年に差し掛かっている頃かと思っています。となると、多分仕事はしていますね。仕事や趣味とは別に、何らかの勉強もしていきたいです。  
**赤澤**：どんな勉強をしていきたいですか。  
**小山**：どんな勉強でもいいのですが、いつか土業も取りたいですし、今の仕事に関係するような、産業廃棄物の分野の資格なども考えています。勉強した知識を活かして仕事をしていきたいです。  
**赤澤**：すばらしい。関連会社の社長をしているかもしれないですね。みなさん、それぞれに未来の自分のイメージはもっていますね。



**鶴岡 祐哉**

株式会社リヴァックス  
処理センター  
2019年度入社

**小山 翔也**

株式会社大栄  
環境事業部  
2018年度入社

**田代 沙絵**

株式会社リリーフ  
事業部  
2019年度入社

**工藤 僚太**

株式会社大栄  
環境事業部  
2019年度入社

**石川 亜耶**

株式会社大栄  
環境事業部  
2019年度入社

**赤澤**：では、そのとき、社会はどうなっていると思いますか。2050年から2055年にかけて、世界人口は100億人に達し、食糧危機が訪れるといわれています。一方で日本の人口は1億人を切り、65歳以上の高齢者人口の割合は44パーセントにまで上昇します。食糧を輸入に頼っている日本で、今のような生活が継続できるのか。今働いている会社がどのような事業をしていけば、30年後の社会に貢献できるのかということを考える必要がありますね。

**鶴岡**：私が勤務しているリヴァックスは、食品ロス問題に取り組んでいます。私は飲料系廃棄物の処理に携わっていますが、廃棄飲料の中には賞味期限が切れていないものも多いです。「子ども食堂」や「フードバンク」などの活動も増えていますが、「商品にはならない食品」を必要としている人たちに届けられる取り組みができればと思います。

**田代**：私はリリーフで「おかたづけ事業」に携わっていますが、2050年には高齢者が増えることで遺品整理より生前整理がもっと一般的になっているのではないかと思います。そうすると、生前整理だけの別会社が新たにできていくかもしれません。今後、世界でもおかたづけニーズは出てくると思うので、遺品整理、生前整理をグローバルに広めていきたいです。

**小山**：大栄ではごみの回収事業をしていますが、最近、個人宅からの依頼が増えています。高齢者を中心に、行政が指定する回収場所までごみを出しに行けない人も多いです。将来はごみステーションで回収するだけでなく、「ごみを出しに行く」サービスも伸びているかもしれません。

**赤澤**：なるほど。老人会などとタイアップして、地域の元気な高齢者の方々と一緒にごみの回収事業を行えば、「個々の希望する働き方」に貢献できるかもしれませんね。

**小山**：地域の中で動ける人が動けない人を助けていく仕組みづ

くりとそのフォローを大栄・大協が担っていただければいいですね。業界の人手不足の解消にもつながるかもしれません。

**最先端技術を駆使して  
社会と業界に貢献する未来**

**石川**：私は大栄で家庭ごみや事業ごみの回収をしています。日々仕事をしていて思うのが、食品の廃棄がとても多いということです。個人の食品に対する考え方も、セミナーなどで会社として呼びかけたいです。大栄は、毎年小学校で「出前授業」を行っていて子どもたちにパッカー車について勉強してもらっていますが、食品廃棄物についても伝えていきたいです。

**工藤**：そうですね。「出前授業」ではごみ処理の内容に加え、地域の年間のごみの排出量などの話もして、子ども世代から食品を大事にするよう根付かせて行くことが大切なんじゃないかと思います。

**田代**：伝えていくことはとても大切ですね。遺品整理や生前整理についても、証券会社などのセミナーを通して啓蒙活動をしています。2050年にはもっとポジティブなイメージになっていると思います。リリーフも、啓蒙活動の場を学校などにも広げて子ども世代にも伝えていきたいです。

**赤澤**：なるほど。人口100億人時代、リヴァックスの可能性はどう考えますか？

**鶴岡**：中国がプラスチックの輸入禁止に踏み切りましたが、中国は経済成長でごみの量も急激に増えているので、中国でプラスチックリサイクルの事業ができないかなと思います。

**小山**：私はプラスチックの時代は終わると思います。プラスチックの代わりに自然由来の素材を使うなど、「素材を自然に戻す」ことに意識が高まる時代になると思うので、そのようなノウハウをもつといいのではないかと思います。今、日本で起こっている

問題を解決して、そのノウハウを海外にもっていけば、世界展開も十分できるはずですね。

**赤澤**：日本は「社会課題の最先端」を行っているといわれています。ということは、日本社会の課題は、海外でも課題になる。今日本で起こっている課題を解決すれば、海外でもビジネスになるということです。近い将来は翻訳アプリなどの進化により言葉の壁もなくなっているでしょうね。

**鶴岡**：AI技術は5年も経てば、随分進化しているでしょうね。

**赤澤**：労働人口が減るので、働く人の能力をサポートするような開発が急速に進むでしょう。車も自動運転になって、人は意思決定するだけ。すでにアシストスーツなどの開発もされていますが、現場で実用化されれば、非力な人や高齢者も仕事ができるようになる。最先端技術を事業にいち早く取り入れることも大切ですね。

**工藤**：アシストスーツを装着した高齢者がバリバリ働くなって、夢のある話ですね。

**田代**：おかたづけ事業は、女性スタッフのニーズが増えています。おかたづけは力仕事も多くて男性スタッフに頼る部分も多いのですが、アシストスーツがあれば女性ももっと活躍できますね。**工藤**：ごみ回収の仕事も、回収のコースを機械に覚えさせてコントローラーで操作する日が来ると思ったらワクワクします。

**赤澤**：現在、GPSの精度は誤差1.5センチだそうです。ごみステーションの場所、回収経路、気象情報、交通情報、カレンダー情報を入力するだけでごみの回収ができる時代が来るかもしれません。もしくは、当社がそのようなシステムを開発して同業他社に提案すれば、業界の人材不足を解決できるかもしれません。この業界が、高齢者も女性も活躍できて時間外労働もない働きやすい業界へと進化するよう、貢献していきたいですね。

**答えはなくてもいい  
「アイデア」が事業になる**

**赤澤**：リリーフのおかたづけ事業は「遺品整理なんてニーズがない」と、スタート当初は反対の声が多くありました。でも、お

年寄りが遺品整理で高額請求されたり、独居老人の孤独死が増えて家族が遺品整理に困っている現実はある。困っている人がいるならやってみよう。事業を始めるのに、答えはなくてもいいんです。アイデアがあったら「やってみよう」からスタートすればいい。これからの人が担い、求められるのは「コミュニケーション」と「アイデア」です。ではみなさん、改めて2050年、自分はどうな仕事をしていきたいですか。

**石川**：私は大栄に入っでごみに興味が出てきたので、2050年になってもごみ問題にかかわってみたいです。JICA研修で海外の方々が西宮で廃棄物処理の勉強をされていますが、世界には廃棄物処理がまだ整備されていない国もあるということを知りました。大栄が「ごみのコンサルタント」として世界に貢献できればと思います。

**工藤**：食品のごみがとても多くて、「なんでこんなものを捨てるの」と疑問に思うことも多々あります。今は「こども農業塾」を開催していますが、事業として農業に取り組むことで「一から育てて無駄なく捨てる」ことを未来に向けて子どもたちに教えたいです。

**鶴岡**：リヴァックスは廃棄飲料をリサイクルしてバイオマス燃料に加工していますが、将来的には自社施設で使用するエネルギーのすべてを自社でまかなうようになっているかもしれません。

**田代**：アシストスーツの導入により作業効率が上がって、本部は作業よりも仕事の窓口としての役割が大きくなると思います。営業活動や広報活動、フランチャイズ店舗の展開により力を入れられる環境になっていると思います。

**小山**：研究開発を自社だけではなく協業なども含めて、常にこの分野の先駆けとしてビジネスチャンスを見極めていくことが大切だと思います。

**赤澤**：そうですね。当社はこれまで「社会問題を解決すること」を事業展開の軸としてきました。これからも、IT技術の導入や海外展開などを含め、新しい展開の可能性は無限にあります。未来を担うみなさんには、これから起こる社会課題を理解してニュートラルに捉え、広い視野で事業と社会貢献について考えてほしいと思います。本日は、ありがとうございました。



**ファシリテーター** | グッドホールディングス株式会社 代表取締役社長 **赤澤 健一**

2019年新卒採用の新人4人と入社2年目の若手社員1人とともに社会と仕事の未来について語り合いました。次世代を担う若手社員には、現代社会が抱える食品ロスや廃プラスチック問題、少子高齢化社会における労働人口の減少による人手不足や高齢者雇用問題、未来に想定される食糧危機問題など、さまざまな社会課題に目を向け、向き合ってほしいと思います。そして、仕事を通して「問題解決力」を養うことで未来の社会に貢献し、当社の経営理念・ミッションである「五方よし」を受け継いでいってほしいと願っています。

## 第22回環境コミュニケーション大賞 「優良賞」受賞

当グループが発行しました「グッドホールディングスグループサステナビリティレポート2018」が、第22回環境コミュニケーション大賞（主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム）の環境報告書部門において、「優良賞」を受賞いたしました。



## International BEVERAGE Awards 受賞

2018年6月27日、「第3回ドリンクジャパン」展示会内で開催されました「International BEVERAGE Awards at Drink JAPAN（主催：FoodBev Media社）」において、リヴァックスの「廃棄飲料製品リサイクル」が「ベストニュービジネス賞」を受賞しました。期限切れなどで出荷できなかった飲料製品に特化したリサイクルサービスが清涼飲料業界のエキスパートである審査員の方々に高い評価を頂きました。



## セーリングチーム

### 全日本実業団ヨット選手権 初制覇

10月25日～28日に茨城県にて開催された「第64回全日本実業団ヨット選手権」に出場しグッドホールディングスセーリングチームが見事優勝いたしました。

## リリーフ名古屋事業所が新たに開設

中部地方のみなさまへリリーフの遺品整理サービスをお届けするために名古屋事業所を新たに開設いたしました。

## メディア掲載

[リリーフ] テレビ東京  
「たけしのニッポンのミカタ!」出演

[大栄] 日本テレビ  
「news every.」出演



## 過去の受賞・顕彰歴

- 2017年度 「第21回環境コミュニケーション大賞」  
環境報告書部門 優良賞
- 2016年度 「第20回環境コミュニケーション大賞」  
環境報告書部門 優良賞  
「環境 人づくり企業大賞2016」大企業区分 優秀賞  
「シニアビジネスコンテスト2016」最優秀ビジネスプラン賞  
「兵庫県体育協会表彰式」  
兵庫県スポーツ優秀選手賞（国際大会）セーリングチーム
- 2015年度 「第19回環境コミュニケーション大賞」  
環境報告書部門 優良賞  
「平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰」  
審査委員会奨励賞
- 2014年度 「環境 人づくり企業大賞2014」奨励賞  
「第18回環境コミュニケーション大賞」  
環境報告書部門 優良賞
- 2013年度 「第17回環境コミュニケーション大賞」  
環境報告書部門 奨励賞
- 2012年度 「西宮商工会議所創立70周年記念：環境経営特別賞」  
「CSR2プロジェクト」コンプライアンス部門  
環境省産業廃棄物課長賞  
「第16回環境コミュニケーション大賞」  
環境報告書部門 奨励賞
- 2011年度 「西宮市優良事業所顕彰  
～NISHINOMIYA APPLIED PRIZE～」  
「第15回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」  
サステナビリティ報告書賞部門 優良賞

## 株式会社リヴァックス 乾燥プラント設備火災について

2018年12月19日早朝、株式会社リヴァックスの自社乾燥プラント製品棟冷却装置周辺で火災が発生しました。

約2か月半の間、乾燥プラントが稼働できず、お取引先様には多大なご迷惑をおかけしました。加えて、火災時に荷物をお預かりしていた排出事業者様には、荷物や契約内容の確認、再委託の手續きなど、多くのご心配、ご苦勞をおかけしました。改めてお詫びを申し上げます。また急な処理先変更や再委託を受けていただいた収集運搬・処理業のみなさまにも助けて頂きました。メーカー様には緊急対応にて設備復旧の手配をしていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

二度とこのような事故をおこさぬよう、自戒の念、決意を込めて、本誌にて顛末を報告いたします。

火災時の状況ですが、当日5:30頃、自動火災警報発報のため従業員が消火器をもって急行するも棟内が煙で充満し、ダクト部より炎も見えたため、初期消火を断念。5:34に消防へ通報しました。火災は建屋や隣地に広がることなく、7:41に鎮火が確認されました。けが人はありませんでした。損傷箇所は、冷却装置内部および周辺コンベヤ・ダクト、集塵機となります。

原因は、何らかの要因で固着滞留した半製品が熱をもって燻り火種となり、過乾燥状態になった半製品に引火したと考えられます。定期点検で温度測定をしていましたが、当時の測定ポイントでは異常温度が感知できず、その燻りが検知できていませんでした。

一方、原料に通常外のものを受け入れていないことから、原料起因の可能性は低いと思われます。また、手順通りの点検も実施されており、オペレーション起因の可能性も低いと思われます。

対策として、今回の原因となった事象を起さないための設備変更・新設を行います。具体的には、機器の形状・温度計の改良、異常温度を感知・自動消火するシステムの導入を行います。これら対策工事は2019年8月に完了予定です（原稿作成時は2019年6月）。

運用面でも対策を行いました。過乾燥を防ぐようマニュアルを変更すると同時に、ポータブルサーモセンサーを新たに導入し、温度測定ポイントも追加しました。対策工事完了まではこれらに加え、人力による振動を与え固着滞留を防ぐなど、通常時より人手をかけて設備対策の補完をしています。

これら原因と対策を監督行政に了承いただき、損傷部の復旧および再委託の完了をもって、2019年3月7日より定常受入を再開することができました。おかげさまで2019年5月には、ほぼ全てのお取引先様より火災前と同様のお取引を再開させていただいております。

プラント停止期間中、多くの関係者より励ましのお言葉やお見舞いの品を頂戴しました。先の見えない状況のなか、このような励ましに元気付けられ、社員一同気持ちを奮い立たせることができました。感謝の念に堪えません。

株式会社リヴァックス  
代表取締役社長

山本英治

## 今年度のサステナビリティレポートは、新卒採用の4名が制作を担当しました！

株式会社リヴァックス  
鶴岡 祐哉



会社のことを詳しく知ることができ、社員としての自覚と責任をさらにもつことができました。また、2050年の問題や課題を知り、自分がどのような仕事に携わることができ、光栄に会社や社会で取り組んでいくべきかを考える良い機会になりました。

株式会社リリーフ  
田代 沙絵



冊子の制作を通じて、各社の活動やグループ全体の取り組みを理解することができました。入社1年目でこのような仕事に携わることができ、光栄に思います。

株式会社大栄  
工藤 僚太



本冊子の作成にあたり、新入社員が仕事を通して感じたこと、多くの方々を知ってもらいたいことを載せています。また、私たちの生活に大きくかわかり、30年後に向けて必要な仕事だと思っていたらと幸いです。

株式会社大栄  
石川 亜耶



制作過程を通して仲間と協力して仕事をする大切さ、グループ全体の特徴を学ぶことができました。今回の経験を糧に、更に精進していきたいです。



# 「資源循環」の社会課題に挑む 食品リサイクル事業



飲料製品の廃棄処理において、独自技術によりパッケージと中身の100%リサイクルが可能です。現代社会の課題「食品ロス」に向き合い、梱包された食品系産業廃棄物がリサイクル可能なシステムを完成させました。



プラントをリニューアルし、容器入りの食品リサイクルが可能に

## TOP MESSAGE



株式会社リヴァックス  
代表取締役社長

山本 英治

株式会社リヴァックスは、世の中を支えるリサイクルの構築のため、積極的に設備投資、人材投資、労働環境整備を行っております。2018年度には「食品リサイクル事業」を本格的にスタートさせ、プラントのリニューアルを行いました。今後も、社会のニーズに応えた事業展開をめざし、同時に法令遵守・情報公開を徹底することで、遵法性と透明性の高いビジネスを実現させてまいります。

## 独自のフローで食品関連のリサイクル100%をめざす

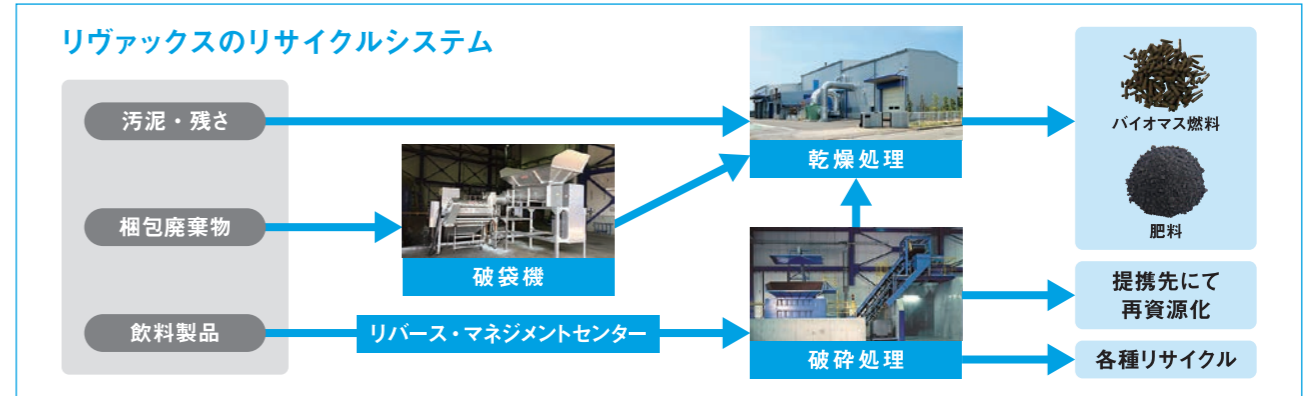
当社は、破碎、破袋、乾燥の処理設備とリバースマネジメントセンター（積替保管倉庫）を保有しており、独自のリサイクルシステムを実現しています。

食品工場、加工工場から排出された汚泥や動植物性残さなどは、乾燥処理をし、バイオマス燃料へとリサイクルされます。また、一部は肥料の原料として利用され、その農作物はやがて食品工場や消費者の食卓へと、「循環」を生み出しています。

期限切れや破損、ラベル不良などの理由で販売できなくなった「飲料系廃棄商品」においては、すでに容器と内容物の100%リサイクルを実現しており、実績は年間約10,000トンと、日本最大クラス。日本有数の飲料メーカーを含む多数の会社の廃棄処理を行っています。

2018年度には、食品リサイクル事業の幅を広げました。食品リサイクルを行うためには容器と内容物を別々に処理する必要があります。そのため、新たに「破袋機」を導入するなど、プラントをリニューアル。梱包された食品系産業廃棄物も取り扱いが可能となりました。

梱包された食品系産業廃棄物のリサイクルは、焼却処理に比べて廃棄コストを低減することにもつながります。飲料を含む食品は食品リサイクル法によって高いリサイクル率が求められていますが、当社の処理フローでは、食品リサイクル法で求められるリサイクル率の達成に貢献することができます。当社は、飲料の100%リサイクルに続き、廃棄食品においても100%リサイクルをめざしています。



## CO<sub>2</sub>削減に配慮した処理プラント

当社は、都市近郊で汚泥や動植物性残さなど有機性の産業廃棄物を乾燥処理しています。処理時のエネルギー効率を高め、環境負荷低減に努めています。さらに、バイオマスボイラーの導入により、「リサイクル」と「CO<sub>2</sub>排出軽減」を両立するリサイクルシステムが実現しました。

## 阪神最大級の乾燥処理プラントで運搬コスト削減にも貢献

汚泥・動植物性残さなどの有機性産業廃棄物のリサイクルプラントとしては阪神間最大級の処理能力(90.9m<sup>3</sup>/日)を保有。当社ではバイオマスボイラーや薬液洗浄装置の導入など、徹底した臭気対策を行うことで、都市型施設を実現しています。都市型施設は、顧客にとっては廃棄物の移動距離を最小限にし、廃棄物処理場への運搬に掛かるコストとリスクを削減できるというメリットがあります。



## 二酸化炭素排出量を大幅削減するバイオマスボイラー

リサイクル施設を従来の都市ガスからバイオマス燃料にすることで、カーボンニュートラルなエネルギー利用に転換。また、廃棄物の貯留ピットと各処理工程から発生する高濃度臭気を、ボイラーの燃焼用空気として利用し脱臭します。2016年度にバイオマスボイラーを導入したことで、年間二酸化炭素排出量を62%削減することができました。

導入前 (H25年度)	化石燃料の大量使用 二酸化炭素排出量 <b>5,159</b> トン-CO <sub>2</sub> /年
導入後 (H30年度)	木質チップバイオマスボイラーにより 都市ガス使用量の削減と電力使用量増加抑制 二酸化炭素排出量 <b>0</b> トン-CO <sub>2</sub> /年(カーボンニュートラル)

## あらゆるリサイクルをワンストップで! アライアンス事業

さまざまな産業廃棄物に関する課題に対し、培ってきたノウハウとネットワークを駆使した最適なソリューションを提案する「アライアンス事業」。

適正処理はもちろんのこと、当社の豊富な取扱実績をもとに、多種多様な廃棄物に対し、荷姿や性状、処理コストなど顧客のニーズに合わせた最適な会社を選定し、提案しています。産業廃棄物は、処理できる廃棄物が業者によって異なります。当社では、自社の処理プラントや積替保管施設、提携業者をうまく活用することで、顧客からのさまざまな廃棄物の処理・リサイクルのニーズにワンストップで対応できる体制を整えています。

リサイクル率を向上させることは、法律で規定される目標の達成だけでなく、企業として社会貢献度を向上させることにもつながります。当社は、リサイクルを通して企業の社会貢献をサポートしたいと考えています。

最適な処理方法をご提案

汚泥	動植物性残さ
廃酸	廃アルカリ
飲料廃棄物	廃プラスチック類
金属くず	木くず
もえがら	ばいじん
など	

各提携先企業 など



swell課、発足。

強力吸引車と高圧洗浄車で、  
工場の環境インフラの機能維持に貢献

工場の排水処理施設や配管、タンクなどの清掃を高機能な吸引車と洗浄車で行うことで、設備の機能維持はもちろんのこと、人海作業によるリスクの軽減や周辺地域の環境負荷低減などにも貢献しています。

「swell事業」とは、排水処理施設の機能維持や配管、雨水側溝の適切な水流確保、堆積物による悪臭や害虫の発生予防など、工場の環境負荷低減のための取り組みに対し、目的や場面に合わせた作業の提案を行う事業です。

この事業は、「廃棄物を処理するだけでなく、その場もきれいにしてほしい」という顧客からの要望から生まれました。2018年度には「swell課」として、リヴァックスの事業の大きな柱のひとつに成長しました。売上やお客様の数も口コミで倍増しており、この事業のニーズの高さを実感しております。

「swell課」では、日本にわずかしかな国内最大級の吸引風量を保有する超強力吸引車を4台導入しており、その圧倒的な能力で清掃作業時間の短縮や削減など作業内容の改善を実現しています。超強力吸引車の活用により、「100m近くの深い地下から吸引できる」「太いホースが使用できるためレングスなどの大きな塊でも吸引できる」など、これまで不可能であった作業が可能になるケースも多く、さまざまな用途開発の可能性が期待される事業です。

「提案×高いサービス品質×法令遵守」で安心のサポートシステムを構築

1

提案

顧客（製造工場・プラント工場・排水系作業現場）に低コスト・工期短縮を提案

2

作業

ほかでは困難な作業（高揚程・高比重）を含め、排水処理設備や配管、側溝などの堆積物の清掃を吸引車と高圧洗浄車でサポート。（設備の機能回復）

3

アフターサポート

清掃時に回収した産業廃棄物処理を適正に行い、法令に基づいた産業廃棄物管理表（マニフェスト）の返却、次回作業の提案。

環境負荷低減の取り組み

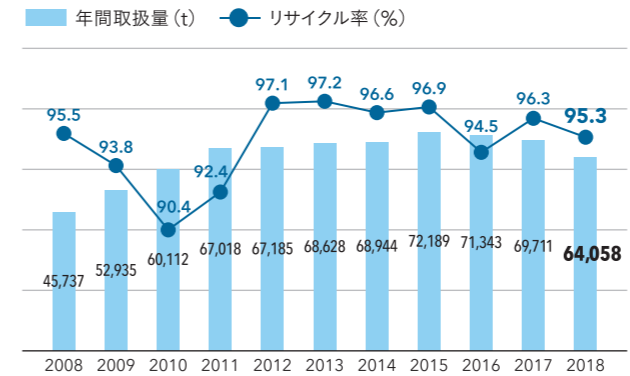
産業廃棄物のリサイクル率

90%を超えるリサイクル率を維持しています

破碎施設がリニューアルした2006年、乾燥施設を設置した2007年より90%を超えるリサイクル率を保っています。物質資源の有効活用、産業資源である埋立処分地の延命、産業廃棄物のリサイクルに取り組むお客様のご要望にお応えするためにも、自社内での選別や提携先との連携をさらに推進してまいります。

※リサイクル率は、年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表す。

リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率

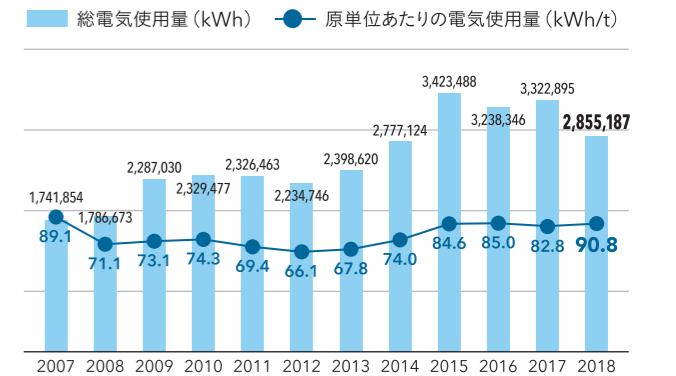


処理センターのエネルギー使用量

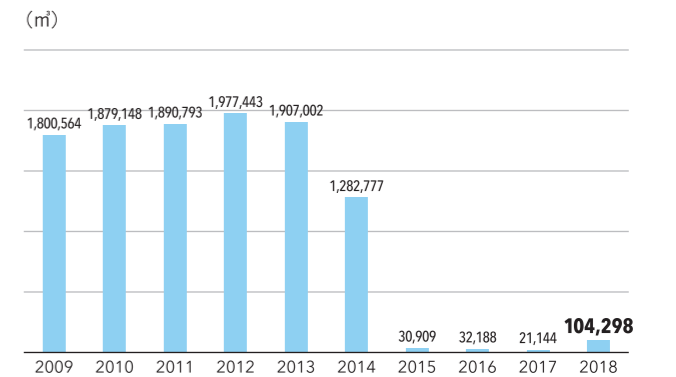
省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター（破碎・乾燥施設）では、電気・都市ガスのエネルギーを使用しています。2018年度の電気使用量は2,855,187kWhでした。減少要因は、火災事故によるプラントの停止の影響です（※現在は復旧）。2018年度の都市ガス使用量は104,298m<sup>3</sup>でした。増加要因は、台風21号の影響によりバイオマスボイラーが停止した際に、バックアップシステムである都市ガスボイラーを使用したためです（※現在は復旧）。

処理センターの電気使用量



処理センターの都市ガス使用量



リヴァックスの対応可能な廃棄物処理		
汚泥・残さ・ 廃液の 乾燥処理	阪神間最大級の リサイクルプラント	▶ 100t/日
	安定した稼働実績	▶ 36,000t/年
食品等の 容器包装の 破碎処理	1日の処理量	▶ 43t/日
	多種類の許可 ● 廃プラスチック類 ● 金属くず ● ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず	▶ 3種
廃棄飲料の 処理	飲料処理実績 日本最大クラス	▶ 8,000t/年
	保有量	▶ 300パレット 食品リサイクル法に対応

悪臭防止対策

各種対策で、規制値を遵守しています

破碎施設には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置、汚泥や動植物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付け、廃棄物の搬入出時以外は閉鎖しています。乾燥施設から発生する高濃度臭気はバイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭を行い、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置しています。西宮市との環境保全協定に基づく臭気測定の結果は、2018年度もすべて規制値内でした。（P20参照）

水質汚濁防止対策

定期的に水質を分析、適正管理しています

廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を水処理施設で処理した後に下水道へ放流しています。連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然予防に努めています。

廃棄物の漏洩・流出防止対策

漏洩・流出防止を徹底しています

リバース・マネジメントセンターでは、容器入り廃棄飲料の荷崩れや開梱作業などで飲料がこぼれた場合でも漏洩しないよう、倉庫外周に側溝及び8m<sup>3</sup>の溜め枡を設けています。さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には漏洩防止のためゴムパッキン付き水密コンテナを使用しています。

産業廃棄物処理フロー

2018年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。  
 廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。



環境測定結果

リヴァックスでは、法律や環境保全協定に基づいて、臭気及び大気、水質の測定を定期的に行っています。  
 2018年度はすべての測定値が規定値内でした。

臭気測定結果 (2018年10月29日：敷地内境界4地点で測定)

悪臭物質名	規制基準	単位	東側	西側	北側	南側
アンモニア	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	0.02	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	0.01	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	0.005	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	0.02	ppm	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルパレアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソパレアルデヒド	0.003	ppm	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
イソブタノール	0.9	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	3	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	10	ppm	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	0.4	ppm	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	0.03	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度	30	ppm	<10	<10	<10	<10

大気汚染物質測定結果 (2018年10月29日、2019年3月14日実施)

測定項目	規制基準		単位	1回目	2回目
	排出基準	時間あたり排出量			
窒素酸化物 (NOx)	350	0.53	ppm	90	48
		8.5	mN	0.34	0.29
		t		5.5	5.1
硫化物 (SOx)	—	—	ppm	1	2
	1.3	0.38	mN	<0.02	<0.02
			mN	<0.02	<0.02
ばいじん	0.2	—	g/mN	<0.001	<0.001

重金属等の水質検査結果 (2018年5月24日採水)

測定項目	単位	規制基準	結果
水温	℃	45以下	20.6
pH	—	5.0~9.0	5.5
カドミウム	mg/l	0.03以下	<0.003
シアン	mg/l	0.3以下	<0.1
鉛	mg/l	0.1以下	<0.01
六価クロム	mg/l	0.1以下	<0.02
ひ素	mg/l	0.05以下	<0.01
総水銀	mg/l	0.005以下	<0.0005
総クロム	mg/l	2以下	<0.02
銅	mg/l	3以下	<0.1
亜鉛	mg/l	2以下	0.64
溶解性鉄	mg/l	10以下	1
溶解性マンガン	mg/l	10以下	0.1
動植物油含有量	mg/l	30以下	<1
鉱油含有量	mg/l	5以下	<1

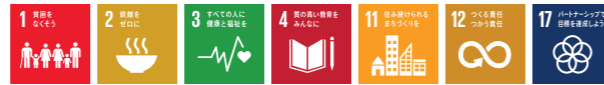
水質測定結果 (2018年度 ※12~2月につきましては、火災事故によるプラント停止のため、測定しておりません。)

測定項目	規制基準	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水温	—	20	22	25	32	32	27	26	23	—	—	—	15
pH	5.5~8.6	6.9	7.3	7.7	6.8	7.3	8.0	8.0	8.1	—	—	—	7.1
BOD	500mg/l以下	9	1.6	1.8	13	1.4	0.5未満	10	1.5	—	—	—	11
SS	300mg/l以下	2	1未満	2	3	11	2	1未満	1未満	—	—	—	1未満

# 遺品整理から生前整理へ 日本のおかたづけ文化を創る



遺品整理、生前整理などの「おかたづけ事業」と、不用品を海外で再利用する「海外リユース事業」という2つの事業をリンクさせることで、モノを循環させる仕組みを構築しています。



## TOP MESSAGE



株式会社リリーフ  
代表取締役社長

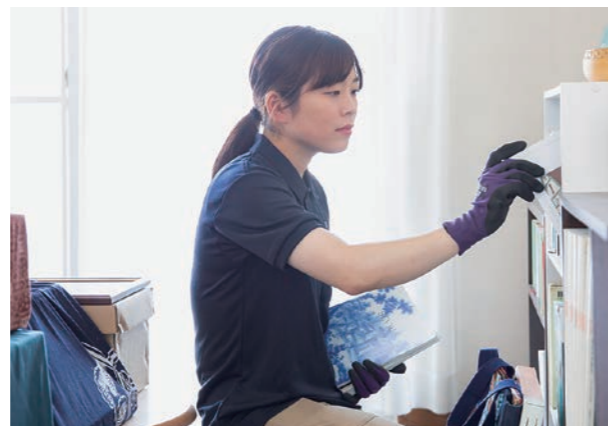
赤澤 正人

私たちは「遺品整理」という業界の健全化に貢献してまいりましたが、近年では「生前整理」へとニーズが広がっており、「生前整理の文化を創る」企業として事業の幅を広げております。また、回収したモノを廃棄するのではなく海外でリユースすることで循環型社会に貢献し、「おかたづけ事業」と「海外リユース事業」という2つの事業を軸にビジネスを展開していきたいと考えております。

## 企業理念を体現する「おかたづけ事業」

### 現代社会の課題を解決する新事業としてスタート

遺品整理などをサポートする「おかたづけ事業」は、2011年に株式会社大栄の一事業部としてスタートさせた事業です。当時、独居老人の孤独死が社会問題化しており、市営住宅などのおかたづけの依頼が年々増加していました。まだ「遺品整理」が仕事として一般的でなかった時代、「このような問題が世間一般でどう扱われているのか」を調べたところ、高額請求などのトラブルも多く、適正なサービス提供が行われていない業界であることがわかりました。そこで、これからの高齢化社会においてますます必要とされることが予想されるこのサービスに私たちが参入することで、「業界の健全化」を図ろうという思いで事業参入いたしました。



### 料金の見える化で「不正ができない業界」へ

当社がまず手がけたのが、「料金の見える化」です。部屋の広さによる参考料金をホームページで公開することで、消費者に「業界の標準価格」を明確に提示し、容易にサービスの比較検討ができるようにしました。これにより、不当な高額請求が不可能となり、価格において「業界のスタンダード」が確立されました。

また、当社では、見積もりから作業までを同じスタッフが担当し、作業後に一切追加請求が発生しない体制を整えています。このことは、よりお客様とのコミュニケーションをスムーズにし、お客様に「信頼度の高いサービス」と認識していただける要因のひとつとなっております。

### 「遺品整理」の現場から生まれた新サービス「生前整理」

「おかたづけ事業」はすでに一般的なものとなりましたが、近年は「終活」の一環として行う「生前整理」のニーズも急速に増えています。当社では、「残された家族への負担を減らそう」という人に対して、どう片付ければいいのかを提案するセミナーやアドバイスを行っています。また、おかたづけで発生した不用品に対して「買取リユースのご紹介」「海外リユースに出す」と

いった提案も行い、自分が大切にしてきたモノの次の行き先をも一緒に考え、「生前整理」を前向きに楽しんでいただけるような文化を日本に根付かせることができると考えています。

おかたづけ事業は、「社会問題を解決する」という企業理念をまさに現在進行形で体現している事業なのです。

### 証券会社や百貨店などの終活イベントでも、「おかたづけセミナー」を開催！



「生前整理」をテーマとしたセミナーの依頼も増えており、啓蒙活動にも力を入れています。故人の大事にしていた趣味のモノや着物などは、残された家族にとって捨てるに忍びないものです。セミナーを行うことで、「生前整理」や「おかたづけ」の必要性を認知していただくことが大切だと考えております。

### 2019年度は名古屋事業所をオープン。FCでもサービスを展開

2019年度には、お客様からの要望で名古屋事業所を開設し、全国3拠点で都市部のニーズに応える体制が整いました。

さらに「遺品整理」「生前整理」という社会的ニーズにスピード感をもって対応するためにはFC展開も重要です。2018年度にはFC加盟店は4店舗増え、全国に16店舗を展開しております。

現在、不動産会社や葬儀会社など約450社と法人提携をしておりますが、今後は、3拠点の事業所を中心に、加盟店のサポート体制を整え、より地域のコミュニティにつながる事業を展開予定です。



## 循環型社会に貢献する「海外リユース事業」

### 廃棄することなく海外でリユース。国を超えてモノの循環を構築

当社では、遺品整理や生前整理で発生した不用品を資源の有効利用のためにリユースしております。モノの行く先を模索する中で、東南アジアでは日本で使用されたものが「Used in Japan」として人気があることがわかり、現地調査の上、2013年に「おかたづけ事業」で回収した不用品をコンテナで海外へ輸出し、現地のリサイクルショップで販売する「海外リユース事業」を開始しました。

現在では、タイ、フィリピン中心とした東南アジア10カ国以上に輸出しており、現地の人々の生活のシーンで喜ばれて

います。日本においても「おかたづけ」をされるお客様からは、「必要な場所で使ってもらえるのが嬉しい」との声が多くいただいています。

また、リユースすることで処分費がかからないことから、「おかたづけサービス」の料金低減にもつながっており、「国を超えたモノの循環の仕組み」とビジネスを完成させることができました。

必要とされているものを必要としている場所や人へ。当社は、日本の社会課題と世界の人々の豊かな暮らしに貢献していきたいと考えています。



輸出先の国について直接ニーズをリサーチすることで「必要なモノを必要な場所へ」届けられるよう、心がけています



コンテナが到着すると人が殺到するほど「Used in Japan」は人気があり、現地の人々に喜ばれています

### 社員インタビュー

## 株式会社リリーフの「おかたづけ」の最前線で働くスタッフに、仕事のやりがいについて聞きました。

### case 1 困っている人をどう助けるか。現場で頼られる存在でありたい。



島田 敏生

2008年株式会社大栄入社  
2016年株式会社リリーフに転籍

私は19歳のときに、アルバイトで株式会社大栄に入社しました。ずっと「この会社で社員になりたい」と思っていたので、「おかたづけ事業」が新規事業としてスタートしたタイミングで手を挙げ、正社員になることができました。

この仕事を始めて一番強く感じることは「人からこんなに感謝される仕事はない」ということです。当社では、見積もりも同ったスタッフが作業をさせていただき担当制なので、お客様とのコミュニケーションは自ずと密になりますが、仕事を終わると心からの「ありがとう」を言っていたことにとてもやりがいを感じています。

お客様は自分たちではどうにもできなかったことを私たちに依頼されています。ある遺品整理のお客様から「この仕事は遺族でない第三者だからできる、本当に世の中に必要とされている仕事だ」と言ってくれたことがとても印象に残っています。

この仕事をするようになってから、私自身、「生きる」ということについて深く考えるようになり、生き方が変わりました。生前整理を依頼される背景はさまざまですが、高齢のお客様の「子どもたちのために片付けたい」と家族を思いやる気持ちを大切にしながら、お客様と一緒にモノを取捨選択し、作業に入らせていただいています。

私は、この仕事は「困っている人をどう助けるか」ということだと捉えています。お手伝いさせていただいたすべてのお客様から「ありがとう」と言ってくれたこと、そしてお客様からのご紹介やリピートが増えることを目標に、これからも仕事をしていきたいと思っています。

### case 2 女性スタッフ第1号として、女性らしい視点で事業に貢献したい。



奥山 千尋

2019年入社

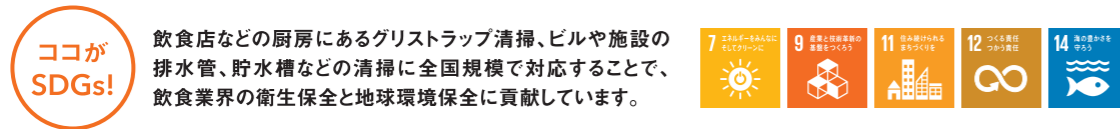
私はずっと販売の仕事をしていましたが、何か違う仕事をしてみたいと思い「おかたづけ」の仕事を始めました。「初の女性スタッフ採用」とのことで、自分が本当に会社の役に立てるのかという不安はありましたが、もともと体を動かすことが好きですし、やりがいのある仕事だと聞いていたので、「とりあえず試用期間の3ヶ月だけでも、やってみよう!」と挑戦しました。

最初はわからないことばかりで、先輩のように力仕事もできず申し訳ない気持ちで一杯でしたが、仕事をやっていくうちに女性のお客様から「どんな人が来るか不安だったけれど、女性で安心した」と言ってくれたことも多々あり、女性であることのメリットも感じられるようになりました。

先輩スタッフが丁寧に指導してくださったおかげで、今では自分で見積もりをとって現場を取り仕切れるようになりました。徐々にお客様から大きな案件を依頼されるようになり、ようやく少しは会社の役に立てるようになったと安心していきます。

おかたづけの仕事は、お客様のプライベートな空間に立ち入らせていただく仕事なので、信頼関係やコミュニケーションがとても大切です。女性ならではの心配りを忘れず、女性であることを強みとして仕事をしていきたいです。将来は、女性だけのおかたづけチームができればと思います。まだまだ奥の深い仕事で学ぶことは多いですが、おかたづけのプロとしてがんばっていききたいと思っています。

# 年間作業実績1万件！ 飲食業界のインフラを支える企業へ



## TOP MESSAGE

株式会社ダイキョウクリーン  
代表取締役社長

津田 政房

株式会社ダイキョウクリーンは、株式会社大協で環境の最前線を走り続けてきたノウハウを活かし、飲食業界の清掃の分野に進出、業界の環境安全に貢献しております。2015年度には関東地域へ進出、事業規模を全国展開することで、年間1万件以上の作業実績を達成いたしました。今後も「なくてはならない唯一の企業」として、業界のインフラを支える存在であり続けることをめざしております。

## 関東進出も好調。いよいよ日本一へ！

### グリストラップの清掃から処理までを一括して行う専門会社

株式会社ダイキョウクリーンは、飲食店などの厨房にあるグリストラップ清掃、ビルや施設の排水管清掃を行っています。

「グリストラップ」とは「油水分離阻集器」のことで、飲食店などの油を含む汚水が排水設備を傷めないよう設置を義務付けられた装置です。野菜くずや残飯をバスケットで阻集するとともに、水に油を浮かせることで油分を分離し、下水に油が流出することを防ぐ役割があります。この水に浮いてしまった油は定期的な清掃が必要で、清掃を怠ると害虫や悪臭の原因になります。

当社は、2010年に大手ファストフードチェーン店よりグリストラップ清掃の相談を受けたことをきっかけに、現在では、グリストラップ清掃やビル、施設の貯水槽や配管清掃を行う専門会社として全国14エリアに対応、「飲食業界のインフラを担う存在」として年間一万件の作業実績を誇っております。



### 関東進出により、全国規模のチェーン店もワンストップ対応！

2016年度には東京オフィスと関東事務所を構え、全国展開の大手チェーン店のお客にも窓口ひとつで対応できる体制を整えました。

東京オフィス・関東事務所では、当初は関西のお客様の関東エリアの店舗に対応しておりましたが、2018年度には関東独自のお客も増え、年間約5,000件を超える作業実績となりました。

関東の市場は関西の4.5倍とも言われ、まだまだ開拓の余地はありますが、関東は他地域以上に「提案力」が試される市場。2019年度も、関西で培った技術力と提案力を武器に「どんな案件もお受けする」という姿勢でお客様のあらゆるニーズに応え、勢いを止めることなく事業を拡大していきたいと考えております。

### 選ばれる理由1 積み上げた技術力とノウハウを強みに高層階、地下階にも対応

当社は作業件数1万件にもかかわらず、クレーム件数ゼロを維持しています。それは、「アナログな作業にまじめに取り組む」ことでノウハウを丁寧に積み上げてきた結果です。そこで培った技術力がそが当社の大きな強みとなっています。

グリストラップ清掃はこれまでホースの届くところが作業の限界とされ、ビルや大型複合施設の高層階や地下階などの店舗は対応が不可能とされていましたが、当社ではポータブル設備を導入し、高層階や地下階にも対応しております。

また、高圧洗浄車で対応できる貯水槽の清掃にも事業の幅

を広げ、病院や施設、大型ショッピングモール、空港など、複合施設の貯水槽や排水管全般の清掃や補修も行っています。

3tバキューム車8台、  
7tバキューム車2台、  
高圧洗浄車2台、  
2t平ボディトラック2台と  
多くの作業車両を  
保有しています。



### 選ばれる理由2 法令遵守、コンプライアンスに基づく適正処理を実施

現代社会において、企業は廃棄物を適正に運搬・処理するだけでなく、「環境安全」や「環境負荷の低減」をも考慮した姿勢が求められています。当社では、定期的な清掃を行うことで厨房の衛生環境の改善を行うだけでなく、グリストラップ清掃事業が、水質汚染の防止や排出される汚泥の低減につながることをめざしています。

また、グリストラップ清掃時に発生する油や食品残渣は「産業廃棄物」として適正に処理することで、清掃から処理まで一貫してコンプライアンスに基づいた適正な作業が求められており、当社ではそれを証明するマニフェストを発行しております。企業の法令遵守が重要視される社会において、リスク管理意識の高いクライアントに選ばれております。



東京オフィス・社員インタビュー 取締役 伊藤 隆

### 大きな市場で勝負！関東エリアも好調

2018年度は、これまで関東地域で行ってきた地道な営業活動が花開き、さらなる営業力が発揮できた年度でした。関西に助けられながら関東独自のお客も増やしており、売上は20%増、作業件数も15%増となっております。また、昨年度採用した新人スタッフが育ち、戦力として活躍してくれていることも、業績の向上に大きく貢献しています。2019年度も関東スタッフ一丸となって、関西の事業基盤を大事にしつつ、次の展開を見せていければと思っています。

# 地域密着企業として、市民サービスに 貢献する

ココが SDGs!

株式会社大栄は西宮市で、株式会社大協は伊丹市で一般廃棄物収集運搬の許可を受けた適正業者です。家庭ごみ・事業ごみなど一般廃棄物の収集運搬や家庭系粗大ごみの回収を担うことで、地域社会に貢献しています。



**TOP MESSAGE**

株式会社大栄  
代表取締役社長  
**木村 裕之**

ごみ回収業は、グループの原点ともいえる事業でインフラを支える社会にとってなくてはならない仕事です。当社はお客様や地域の方々に真摯に向き合うことで業界の健全化を進めてまいりました。近年では業界のさらなるイメージアップにも力を入れており、人々が誇りをもって働ける業界へと進化をめざしております。今後も社会に向けて、私たちの取り組みを伝えていければと考えています。

**TOP MESSAGE**

株式会社大協  
代表取締役社長  
**森下 和尚**

当社は、長い社史の中で、地域のみならずが快適に過ごせる生活環境づくり、ごみの適正処理や減量のお手伝いを心がけてまいりました。2017年度にスタートした環境ビジネスドライバーに特化した人材派遣事業「ジーキャリア」も、人材不足という業界の課題解決に貢献させていただいております。これからも、「老舗」のプライドをもって地域の快適で安全な生活に寄与してまいります。



## 人々の暮らしを支える「サービス業」として行政と連携

私たちは、家庭ごみ・事業ごみなど一般廃棄物の収集運搬や家庭系粗大ごみの回収を担う仕事をしております。この仕事は、地域の人々の快適な暮らしを支える「サービス業」として捉えています。そのため、丁寧かつ迅速な対応はもちろんのこと、挨拶や立ち居振るまいなどのマナーにおいても、地域の方々が気持ちよく快適に過ごせるよう心掛けて、仕事に取り組んでおります。おかげさまで、あたたかい声や感謝の言葉をいただく場面も多く、日々、「地域の豊かな生活を支える仕事である」と実感しております。

また、クライアント企業からは、社会貢献や事業方針など「企業としての在り方」が評価されており、これらは私たちの「地域密着の老舗企業としてのプライド」につながっています。

これからも、みなさまから「選ばれる企業」として、行政やお客様、地域社会などのステークホルダーとの信頼関係を大切に、真摯に事業に取り組んでいきたいと考えております。

## 「廃棄物計量システム」と「従量課金制」でごみの減量化に貢献

13年前より車両にごみを積み込むだけで重量を計測できるスケールパッカー車を導入、ごみを計量し、そのデータを管理することで月ごとのごみの増減や処理金額が一目でわかる「廃棄物計量システム」を導入しています。

これにより、お客様に対してごみ処理量の透明性を確保できるだけでなく、「従量課金制」とすることで「ごみの減量化=経費削減」の提案につなげることができております。

数字によるごみの「見える化」は、ごみの減量化の意識を高め、予想以上の減量に成果を上げています。

「ごみの減量」は、当社にとっては売上の減少にはなりますが、同時に処理費用も下がります。売上ではなく利益ベースで捉えることで、お客様と社会、地球環境にとってよりよい提案やサービスが実現できることを心がけています。



ここに重量が表示されます

### ■ 廃棄物計量システムの仕組み



お客様に重量による課金請求



## 地域に愛される企業をめざして



### case 1 出前授業を行っています

株式会社大栄では、西宮市内の小学校や高校で出前授業を行っています。2018年度は4月に市内2校(瓦林小学校・夙川小学校)を訪問し、ごみの種類とその分別法、ごみ収集車の仕組みについて実際の車両を用いて説明しました。さくらチームの使用するピンクの車両に子どもたちは興味津々でした。



### case 2 サツマイモ苗を小学校に寄贈しています

株式会社大協は、2010年度から伊丹市内の小学校にサツマイモの苗を寄贈し、栽培を通じて子どもたちの環境教育や食育を支援しています。この苗は、グッドホールディングスグループが参加している「甲山農地プロジェクト」を主宰するNPO法人子ども環境活動支援協会(LEAF)が落ち葉でつくった堆肥を使って育苗したものです。2018年度は小学校16校及び特別支援学校と幼稚園15園に計2,171苗を寄贈しました。

働く人を  
大切に環境ビジネスドライバーは、  
こんな仕事です

「誰もが安心して働ける環境づくり」をめざし、個人の能力を存分に発揮できる職場環境と雇用形態、キャリアプランを用意しています。2018年度には、アルバイト10名を正社員登用しました。

## 野々口 勇斗 (環境事業部)

2016年11月アルバイトとして入社し、2018年11月正社員となり、現在、環境ビジネスドライバーの助手として仕事をしています。職場の雰囲気がとても明るく、初日から「ここで一生働きたい!」と思っていました(笑)。後でわかったことですが、当社は上司が現場に精通して現場の一番の理解者なので、それが働きやすさにつながっているのだと思います。

「ごみ回収」は一見単純な仕事に思えますが、とても奥の深い仕事です。自分の住む街がどんどん綺麗になっていく爽快感は、体験した人にしかわからないかもしれません。夏の暑い日に地域の人が飲み物をくださったり、ごみを回収して去り際に「ありがとうございます!」と声をかけてくださったり、幼稚園の子どもがバッカー車に手を振ってくれたり。日常のあたたかいやり取りも大きなやりがいです。

アルバイトから正社員にという話があったときは、びっくりしました。でも、「ちゃんと仕事ぶりを見てくれていたんだ」と、本当に嬉しかったです。ちょうど子どもが生まれたところだったので、父親としての自覚も生まれました。この仕事は、残業がなく早めに帰ることができるので、子どもとの時間も大切にできます。これからもできることを一生懸命やって、将来は環境ビジネスドライバーに挑戦したいです。



## 末廣 信也 (環境事業部)

2018年8月アルバイトとして入社し、2018年12月正社員となり、現在、環境ビジネスドライバーとして仕事をしています。入社してまだ1年経っていませんが、上司との距離が近く、自分の意見をしっかりと伝えることができる、風通しのいい企業だと感じています。ごみの回収は、いかに効率よく回収するかが大切なのですが、職場でそのためのアイデアを出すと「やってみよう!」と話が早い(笑)。万が一うまくいかなくても、「次はどうすればいいか」をみんなで一緒に考えるよう

な会社なので、自然と誰もが自分の意見を言えるのだと思います。夕方、回収を終えて会社に戻ると、「事故を防ぐには」「効率を上げるには」など、建設的な議論が飛び交っていることもしばしばです。

仕事では「会社の看板を背負っている」という気持ちで、住民の方に気を配りながら運転しています。この仕事はチームワーク。一緒に働いている同僚たちもみんないきいきして活気があり、協力し合いながら作業をしているので、毎日とても充実感がありますね。当社はいろんなごみの処理を行っているのですが、今後は、かかわる場所やごみの種類を経験して、ごみ回収のプロとして自分のスキルを伸ばしていきたいです。

働き方を  
大切に環境ビジネスドライバーに特化した  
派遣事業「Gcareer(ジーキャリア)」業界の抱える人材不足を解決する  
「Gcareer(ジーキャリア)」

環境ビジネス業界は、社会基盤を支える地域サービスでありながら深刻な人材不足にあります。2017年度に、「環境ビジネス業界が抱える人材不足を解決する」ことを目的に、ジーキャリアを立ち上げました。当初は派遣スタッフ数名の事業でしたが、現在はドライバー職から作業スタッフ職まで安定的に登録数が増えております。また取引先様も増えており、事業として着実に成長しております。

当社の強みは、長年事業で培ってきた環境ビジネスドライバーの育成ノウハウです。2018年度には、これまでの教育研修を再検証し、新たなカリキュラムとして確立したことで、より効果的に充実した教育体制が整いました。このことは、今後の当社の社員研修やリーダー育成研修にも還元できるものと考えております。

働く場所や雇用形態  
「働き方」の多様性に応える

「派遣事業」を立ち上げたことで、環境ビジネスドライバーが「正社員」「アルバイト」に加え、「派遣」として働くという選択も可能になり、あらゆる働く場所や働き方、雇用形態など、働く人の多様性に応えられる体制となりました。

また、派遣先の企業から直接雇用のニーズも増えていることから、ジーキャリアは業界の人材不足だけでなく、業界の人材育成、定着率の向上や労働環境改善にも貢献したいと考えています。仕事に対する姿勢やマナーなども重視したカリキュラムで環境ビジネスドライバーとして優秀な人材の育成に貢献していきます。さらに、これまで当社が培ってきたノウハウや取り組みを業界全体で共有することで、採用から育成、職場環境までをトータルにサポートできるよう尽力してまいります。

整った研修カリキュラムと教育体制で  
環境ビジネスドライバーを育成

ジーキャリアでは、ドライバー及び作業スタッフそれぞれのカリキュラムで、社会基盤を支える地域サービスに携わる人材を育てる研修を行っております。研修には、直接の業務にかかわる運転技術や安全教育はもちろん、仕事に対する姿勢やマナー研修も取り入れ、環境ビジネス業界と地域社会に貢献する人材の育成をめざしております。



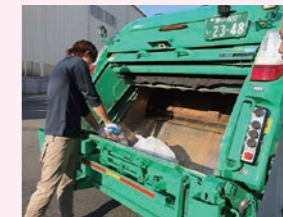
## 安全教育

法令遵守の徹底、車両点検の重要性など、環境ビジネスドライバーに必須の安全教育を行います。



## 運転教育

エコドライブ、狭路運転、巻き込みや過積載の危険性、駐車の際の注意点などを徹底的に指導します。



## 実地研修

実際のルートに沿って運転を行い、収集現場にて作業を行います。



## カリキュラム研修

当社オリジナルの座学研修を個人のレベルに合わせて段階的に行います。



## 女性だけのごみ収集チーム「さくらチーム」

2017年に発足した関西初の女性によるごみ収集チーム「さくらチーム」。現在、2台の「さくら号」が西宮市内のごみを収集しています。ごみ収集の仕事は、朝の早起きと適度な運動が習慣にできる健康的な仕事。残業もないので家事や子育てとも両立が可能です。当社では、女性がいきいきと働ける環境を整えることで、西宮市の美化に大きく貢献できればと考えています。





## さまざまな変化に迅速に対応し、経済と社会の両面からグループ全体の発展を追求します

**基本的な考え方**  
グッドホールディングスグループは、法令を順守し健全で透明な企業経営を行うことを基本に、「事業」を通じ優れたサービス・製品を提供することにより社会の発展に貢献するとともに、ステークホルダーからの期待と信頼に応えることを基本的な考えとしています。

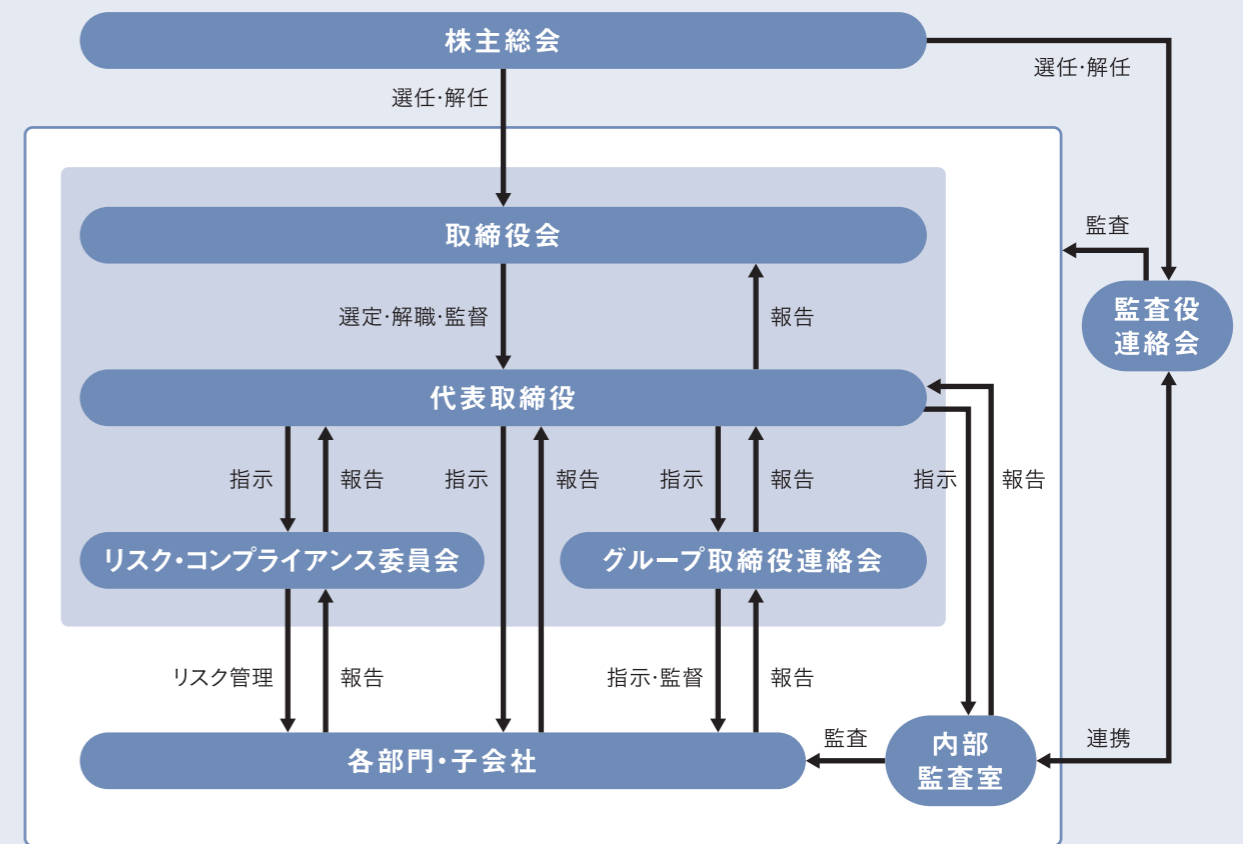
### 組織統治

#### 経営管理体制

##### 「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業及び経営に努めています。またグループ全体の持続的成長及び中長期的な企業価値向上をめざし、コーポレートガバナンスの構築に努めています。

#### コーポレートガバナンス体系図



#### その他の会議体

- **グループ部門責任者会** ……全グループの役職者が集まり、各社の収支実績や活動内容などを報告し、有益な取り組みや問題点などを互いに認識し参考にすることで自社内の活動見直しや改善を図るための情報共有の場となっております。
- **各社事業会議／定例会** ……会社の方針や課題について協議し、円滑な業務執行を図っています。

## 取締役会

### 経営の重要な意思決定と 取締役の業務執行の監督を行います

当社の取締役会は、6名（うち社外取締役1名）により構成されており、経営の重要な意思決定と各取締役の業務執行の監督を行っております。また、独立性の高い社外取締役より、客観的な提言及び助言を得ております。

## リスク・コンプライアンス委員会

### 総合的なリスク管理とコンプライアンスの徹底に 取り組みます

月に1回開催する当委員会はグループ代表取締役社長を委員長とし、監査役、各子会社代表取締役社長、取締役及び委員長から指名された委員で構成されています。潜在的・顕在的なリスクやコンプライアンス違反などについて協議・検討し、統合的なリスク管理に努めるとともに研修教育を行い、企業の社会的責任とコンプライアンスの徹底に取り組んでおります。

リスク・コンプライアンス委員会では2018年度において、下記のような議題について報告、協議などを行ってまいりました。

反社会的勢力のチェック	販売先や取引先が反社会的勢力でないかのチェック状況の報告及び課題についての協議
労務管理	時間外労働時間の実績（単月、累積）、入退社数の状況、有給休暇の取得状況等の報告及び課題についての協議
内部監査報告・改善状況報告	実施した監査内容の報告及び改善状況の報告
教育研修	リスクやコンプライアンスに関する研修の計画及び実施、2018年度は下記の研修を実施いたしました ・インサイダー取引防止について ・ハラスメントについて ・取締役の義務と責任、及び廃掃法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）の欠格要件について ・情報セキュリティ安全管理について
事故報告	各社で発生した事故（車両や設備等での事故及び情報システム障害やセキュリティ事故含む）の概要及び防止策等の報告
その他	・台風21号の被害状況・経験を踏まえて、BCPマニュアルの改訂の必要性について協議し、改訂を実施 ・働き方改革を受けた法改正による影響の評価及び対策案の協議・検討（特に有給休暇の義務化について）

## 監査役連絡会

### 取締役の職務執行を監査しています

当社の監査役連絡会は、常勤監査役1名、独立性の高い社外監査役1名により構成されております。取締役会や重要な会議への出席などにより取締役の職務執行を監査しております。監査役連絡会は月に1回開催し、監査方針や監査計画の策定、実施した監査の内容や結果の報告及び意見交換を行い、共通認識・判断の醸成を図るとともに、必要に応じて取締役に対して勧告などを行い是正、改善を求めています。

## グループ取締役連絡会

### グループ全役員による連絡会で協議を行います

当社グループ全役員および監査役、内部監査室長で構成され、月に1回開催しております。各子会社からの業績報告や決議事項についての協議を行い、グループ内の共通認識を図る機関として運営しております。

## 業績報告会

### 全従業員に業績をオープンにしています

売上高や利益高などを報告する業績報告会を、子会社ごとに毎月1回行っております。この業績報告会では、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象としており、全社や各部門の収益状況、その分析などが報告されます。会社の業績をオープンにし、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっております。



## 内部監査部門による監査

### 内部監査による検討評価、助言・提案、 フォローアップ監査を徹底しています

当社は代表取締役社長の直轄部署として内部監査室を設置し、当社グループ全体の業績の向上、財産の保全・活用に資することはもちろん、コンプライアンスの徹底と充実を図っております。代表取締役による承認を得た内部監査計画書に基づき、経営活動の全般にかかわる管理・運営の業務の遂行状況について合法性と合理性の観点から検討評価しております。内部監査結果については、内部監査報告書として取りまとめ、内部監査の過程で改善を要する事項が発見された場合には、助言・提案を行うとともに、被監査部門による改善状況をフォローアップ監査により確認しております。また、内部監査の実施状況はリスク・コンプライアンス委員会においても報告し、委員会メンバーと共有しております。

VOICE



グッドホールディングス株式会社  
常勤監査役 **八鳥 尚志**



グッドホールディングス株式会社  
社外監査役 **上田 憲**

当社は、経営理念として「五方よし」を掲げ、「みんなが良いと感じる会社」をめざしております。そのため、株主・顧客・取引先・従業員などのステークホルダーに対して、法と規則を遵守した透明性の高い企業経営を実践して、長期的・継続的に企業価値を増大させることを、経営上の重要な課題として位置づけております。

現在の取り組みは、取締役会、監査役連絡会及び内部監査室という枠組みの中で、社内制度の改革を進め、コーポレート・ガバナンスの強化を図っております。

具体的には、リスク・コンプライアンス委員会の設置や内部通報制度の導入などを行っております。今後は、各ステークホルダーへのアカウンタビリティ（説明責任）の充実、迅速かつ適切なディスクロージャー（情報開示）に取り組んでまいります。

## 内部通報制度

### 不正行為の未然防止、早期発見を図っています

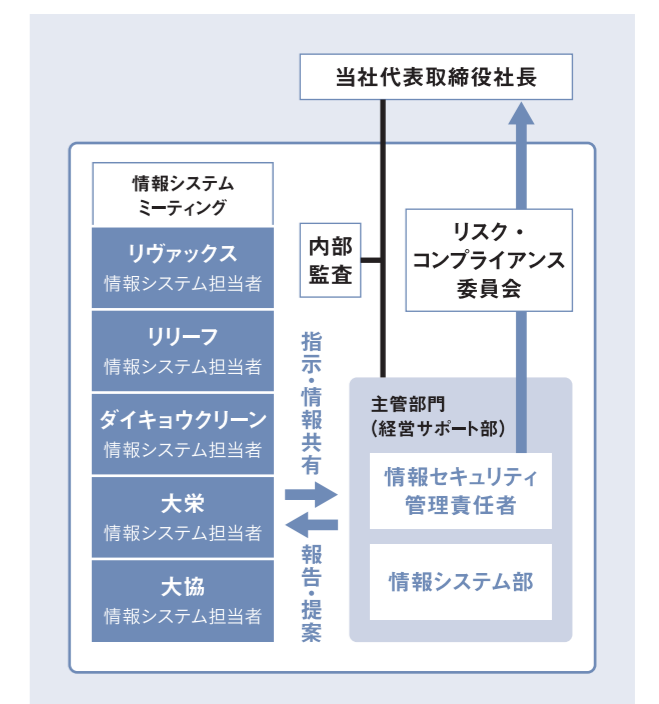
当社グループでは、法令違反、規程違反、社会通念に反する行為などを早期に発見し、不正行為を未然に防ぐとともに必要な改善を図り、コンプライアンス経営の推進を目的として、内部通報・相談窓口（グッドホールディングス・ヘルプライン）を設置しております。通報・相談窓口は、社内と社外の両方に設置し、匿名での通報や組織的な問題に関する通報を行いやすいよう配慮した制度になっております。

## 情報システムセキュリティ体制

### 事業活動において取り扱う情報資産の保護を 私たちの責務と捉え、サービスの継続的な提供と 健全な事業の発展に努めています

当社グループの取り扱うさまざまな情報資産に対する、漏洩や改ざん、紛失などのリスクを回避・低減するため、「情報セキュリティ安全管理規程」並びに「IT管理規程」を定め、情報セキュリティにかかわるリスク管理を行っております。また、規程の管理・運用は各社の情報システム担当者が担い、定期的に行われるミーティングやリスク・コンプライアンス委員会で、組織全体の情報セキュリティ体制を常時見直し、徹底した情報資産の保護・管理に努めております。

## 情報システムセキュリティ体制



法令順守

法令順守状況

2018年度も重大な違反はありませんでした

グループ各社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。

また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正に行われているかなどを、適宜確認しています。

2018年度も前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

事業に関する主な法令(抜粋)

法令	名称
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備え付け等
大気汚染防止法	NOx、ばいじん等の排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準等
騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検及び整備義務
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任等
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施等
酸素欠乏症等防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検等
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検等
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭等の測定方法や回数等

順守評価の実施

「順守評価記録」を活用し、法改正にも迅速に対応しています

当グループに適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、順守評価記録で管理しています。この順守評価記録に従って、法的要求事項が守られているかを評価し、万一、違反が発見された時は是正処置を行う手順を確立しています。

事業にかかわる法改正については、当該記録項目を改訂するとともに、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内に展開しています。

順守評価記録

過積載の防止

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物を収集運搬するリヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。

積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。

処理前契約締結の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託及び受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。当グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。

とりわけ、産業廃棄物事業を主体とするリヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認を行うことにより、処理前の契約締結に努めています。

情報開示・説明責任

サステナビリティレポートの発行

コミュニケーションツールとして、各社で活用しています

廃棄物処理事業そのものやグッドホールディングスグループの取り組みを広く知っていただきたいとの思いで、リヴァックスは2002年度から、大栄と大協は2008年度から報告書を発行しました。それから毎年社員の手で作成し、各社とも版を重ねることに充実したものとなりました。

2015年度、ホールディングス体制への移行を機に、報告書についても、グループで統括することとなりました。ホールディングス体制で第3回目の発行となる2017年度からは名称を「サステナビリティレポート」と変更し、「第22回環境コミュニケーション大賞」において、昨年に引き続き優良賞を受賞しました。今後もステークホルダーのみならず私たちを結ぶ重要なコミュニケーションツールの一つとして、引き続きその充実に努めていきます。



産廃情報ネットでの情報開示

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度\*」が創設されました。各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。

公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」は、ここに情報を掲載すると新制度で求められる事業の透明性にかかわる基準に適合するように構築されており、許可内容や財務諸表などの情報を同サイトで公開しています。

※優良産廃処理業者認定制度：5つの基準(①実績と遵法性 ②事業の透明性 ③環境配慮の取り組み ④電子マニフェスト ⑤財務体質の健全性)すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

[産廃情報ネット] <http://www.sanpainet.or.jp/>

メールニュース・Webでの開示

活動報告、活動状況などを掲示・メール配信しています

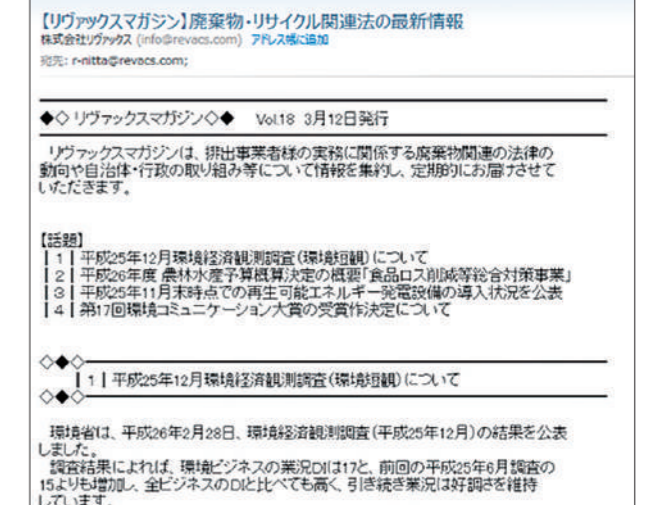
毎月、各社の最新の活動報告やセーリングチームの活動状況等をWebサイト (<https://www.goodhd.co.jp/>)にて掲示しております。

また、各社が自社の活動報告やイベント告知をお知らせする他に、グループ共通で展示会・セミナーの案内などをメールニュースにて配信しています。

これ以外にも月1回、リヴァックスでは「廃棄物・リサイクル関連法の最新情報」として、法改正の状況や行政が主催する案内を配信しています。



Webサイト



メールニュース



# 循環型社会の一翼を担う企業として 環境に配慮した事業活動に努めています

## 基本的な考え方

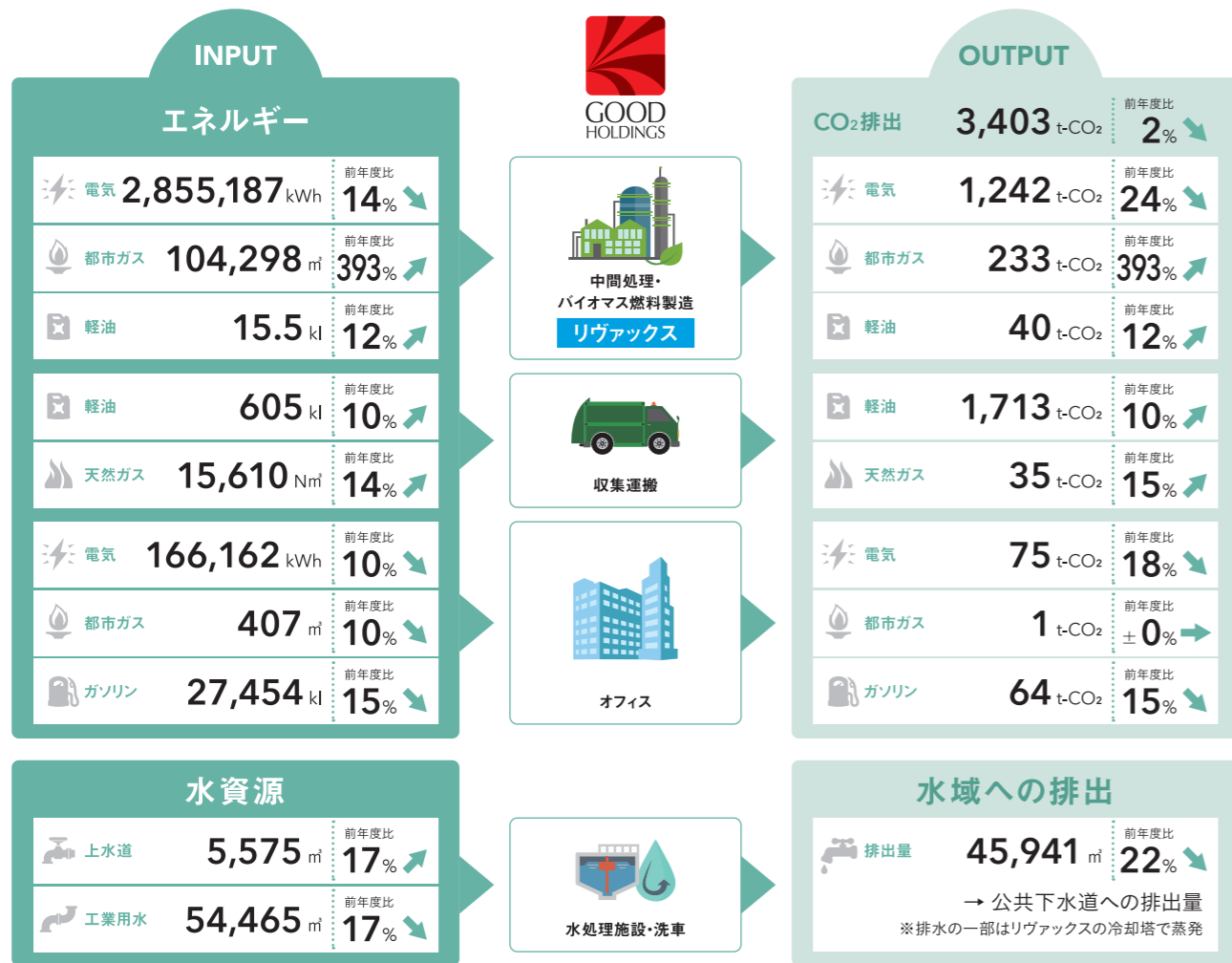
地球環境を守り、社会の持続的な発展に貢献していくことは、私たちの責務であり、グッドホールディングスグループは、地球環境の保全、法令順守などへの取り組みを継続し、事業環境に伴う環境負荷の低減などに努めています。

## マテリアルバランス

2018年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量 (INPUT) と二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) などの環境への排出量 (OUTPUT) は次のとおりです。INPUTとOUTPUTを把握した上で、資源の有効活用及び環境負荷の低減に取り組んでいます。

## グッドホールディングスグループ環境方針

- 1 地球環境の保全
- 2 法令順守
- 3 地域社会との共存・コミュニケーション



◎二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) の排出係数  
供給された電気 (関西電力) 0.000495 t-CO<sub>2</sub>/kWh  
軽油 (単位発熱量) 37.7GJ/kl (排出係数) 0.0187tC/GJ  
都市ガス (単位発熱量) 448GJ/千Nm<sup>3</sup> (排出係数) 0.0136tC/GJ  
天然ガス (単位発熱量) 435GJ/千Nm<sup>3</sup> (排出係数) 0.0139tC/GJ  
ガソリン (単位発熱量) 346GJ/kl (排出係数) 0.0133tC/GJ

(出典)  
地球温暖化対策の推進に関する法律 (平成30年12月27日環境省報道発表資料)  
平成29年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表について  
地球温暖化対策の推進に関する法律施行令 別表第一 (第三条関係)

## 活動の目標と実績

活動のテーマ	Plan	Do	Check	Action
	2018年度目標	2018年度実績	結果	2019年度目標
<b>リヴァックス</b>				
処理・運搬におけるエネルギー使用量削減 (原単位あたり)	電気 90.70kWh/t以下 燃費 3.91km/ℓ以上	100.07kWh/t 3.92km/ℓ	× ○	電気 90.13kWh/t以下 燃費 3.95km/ℓ以上
オフィスにおけるエネルギー使用量削減	電気 4,370kWh/月以下 (※1) 燃費 18.84km/ℓ以上	4,030kWh 21.52km/ℓ	○ ○	電気 4,030kWh/月以下 燃費 21.52km/ℓ以上
安心・信頼される廃棄物処理サービスの追及	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守	苦情件数: 2件 自主基準値順守	× ○	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守
	●お客様への情報発信			
	メールマガジンの発行: 12回 セミナーの開催: 1回	12回発行 1回実施	○ ○	メールマガジンの発行: 12回 セミナーの開催: 1回

リリーフ	2018年度実績	結果	2019年度目標
エネルギー使用量削減	電気 41,600kWh以下	○	電気 37,880kWh以下
効率的な資源の使用	ガソリン 12.1km/ℓ以上 軽油 6.1km/ℓ以上	○ ○	ガソリン 現状維持、もしくは14.2km/ℓ以上 軽油 現状維持、もしくは6.4km/ℓ以上
環境負荷の低減	事務所内の廃棄物減量: 347kg以下	×	現状維持、もしくは1,046kg以下

ダイキョウクリーン	2018年度実績	結果	2019年度目標	
エネルギー使用量削減	電気の使用量 ガソリン使用量 軽油の使用量	18,940kWh 5.53km/ℓ 5.79km/ℓ	— — —	現状維持: 18,940kWh以下 現状維持: 5.53km/ℓ以下 現状維持: 5.79km/ℓ以下
環境負荷の低減	水の使用量 事務所の廃棄物減量化	598,8m <sup>3</sup> 262.1kg	— —	現状維持: 598,8m <sup>3</sup> 以下 現状維持: 262.1kg以下

大 栄	2018年度実績	結果	2019年度目標
エネルギー使用量削減	電気 18,940kWh以下	○	電気 18,940kWh以下
効率的な資源の使用	●燃費の維持 ガソリン 11km/ℓ以上 軽油 2.63km/ℓ以上 天然ガス 3.84km/Nm <sup>3</sup> 以上	○ × ×	ガソリン 11km/ℓ以上 軽油 2.62km/ℓ以上 天然ガス 3.76km/Nm <sup>3</sup> 以上
環境負荷の低減	水の使用量削減: 2,062m <sup>3</sup> 以下 事務所内の廃棄物減量化: 587kg以下 CO <sub>2</sub> 排出量削減: 542,128kg-CO <sub>2</sub>	× ○ ×	水の使用量削減: 2,096m <sup>3</sup> 以下 事務所内の廃棄物減量化: 560kg以下 CO <sub>2</sub> 排出量削減: 564,059kg-CO <sub>2</sub>
	グリーン購入の推進	○	コピー用紙など対象品目の実施率: 100% 継続的な実施

大 協	2018年度実績	結果	2019年度目標	
エネルギー使用量削減	電気使用量の削減 ガソリン使用量の削減 都市ガス使用量の削減	25,474kWh 4,214ℓ 81.4m <sup>3</sup>	○ ○ ○	現状維持: 25,474kWh以下 現状維持: 4,214ℓ以下 現状維持: 81.4m <sup>3</sup> 以下
効率的な資源の使用	●燃費の維持 コンテナ車 4.46km/ℓ以上 大型車燃費の維持 小型車燃費の維持 平ボディ車 4.76km/ℓ以上	4.3km/ℓ 2.44km/ℓ 3.44km/ℓ 4.8km/ℓ	× ○ ○ ○	現状維持: 4.3km/ℓの±3% 現状維持: 2.44km/ℓの±3% 現状維持: 3.44km/ℓの±3% 現状維持: 4.8km/ℓの±3%
環境負荷の低減	水の使用量削減 紙の使用量削減 事務所の廃棄物減量化	1,489m <sup>3</sup> 105.75kg 282kg	○ ○ ○	現状維持: 1,489m <sup>3</sup> 以下 現状維持: 105.75kg以下 現状維持: 282kg以下

グッドホールディングス	2018年度実績	結果	2019年度目標	
エネルギー使用量削減	電気の使用量 ガソリン使用量	16,570kWh 3.60km/ℓ	— —	現状維持: 16,570kWh以下 車両解約により目標設定なし

※1 2017年8月の事務所移転に伴い、目標数値の対象を本社に限定しました。

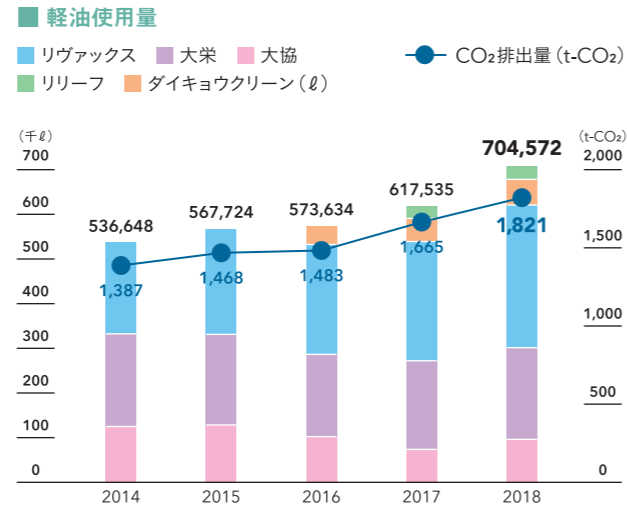
環境負荷低減の取り組み

軽油使用量

エコドライブに努めています

廃棄物の収集運搬で使用する各車両をはじめ、場内で利用するフォークリフト、ショベルなどの燃料に軽油を使用しています。今年度の増加要因としては、車両台数の増加によるもので、2018年度の軽油使用量は704,572ℓと、前年度より12%増加しました。今後も引き続き、ドライバーの意識を高め、エコドライブの徹底や、定期点検を実施していきます。

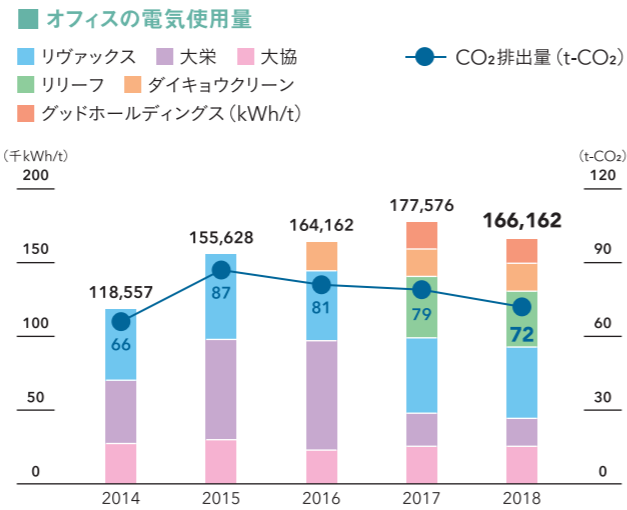
※前年度のサステナビリティレポートにて2017年度のリーフの軽油使用量の値に誤りがありました。正しい数値を掲載しております。



オフィスの電気使用量

照明点灯時間の短縮、空調の温度管理で省エネ活動を推進しています

2018年度のオフィスでの電気使用量は166,162kWhで、前年度より6%減少しました。オフィスでは、自然光の活用による照明点灯時間の短縮や、空調の温度管理(冷房28度以上、暖房22度以下)などによる省エネルギー活動を実施しています。

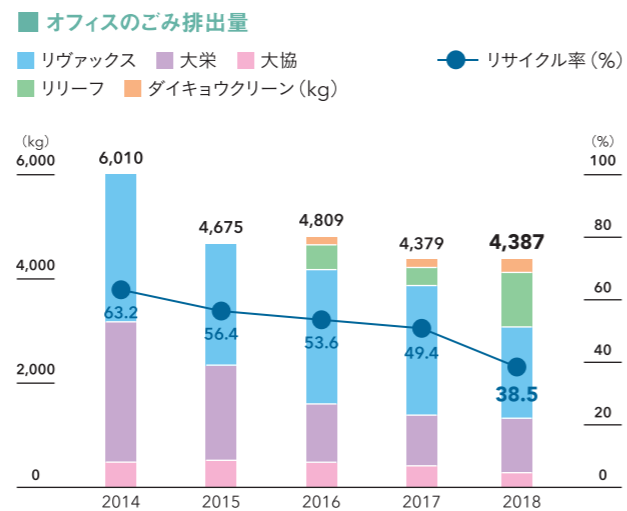


オフィスのごみ排出量

排出量は前年度から増加しました

オフィスから排出する廃棄物はリサイクルの可否を基準に種類ごとに分別し、リサイクルを推進しています。

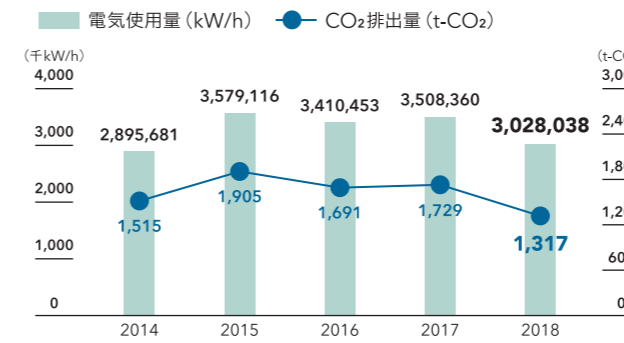
2018年度のオフィスからの総排出量は4,387kg、リサイクル率は38.5%でした。排出量は約0.1%増加し、リサイクル率は前年度を下回りました。



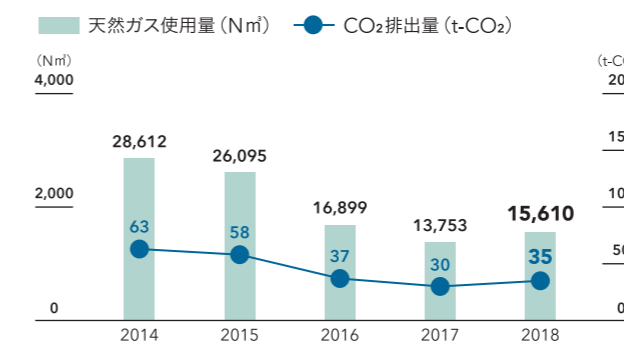
環境パフォーマンスデータ

グッドホールディングスグループにおける過去5年間の推移です。INPUTとOUTPUTの数値を把握し、改善のための指標にしています。

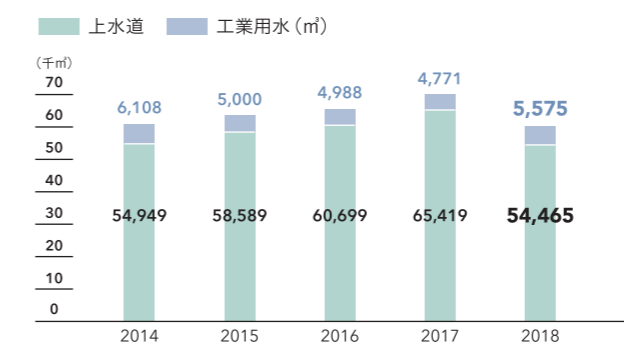
電気使用量



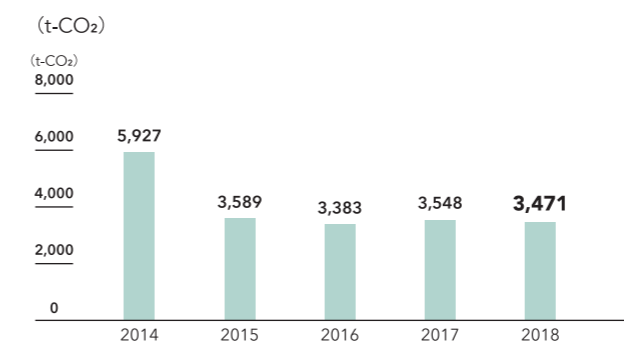
天然ガス使用量



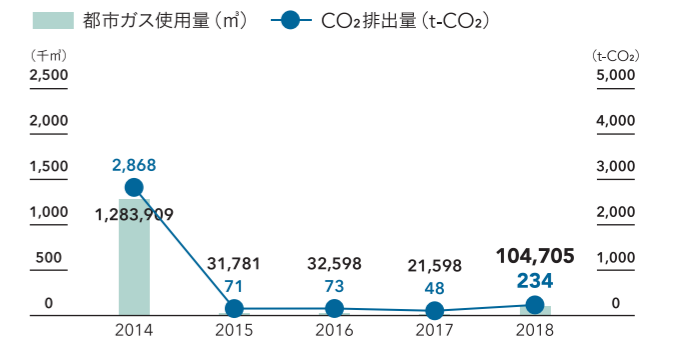
水使用量



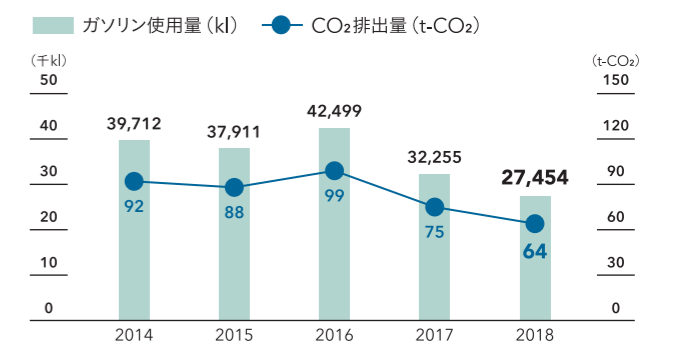
CO2総排出量



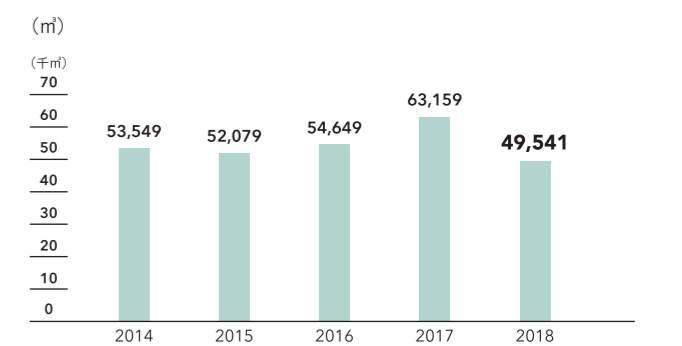
都市ガス使用量



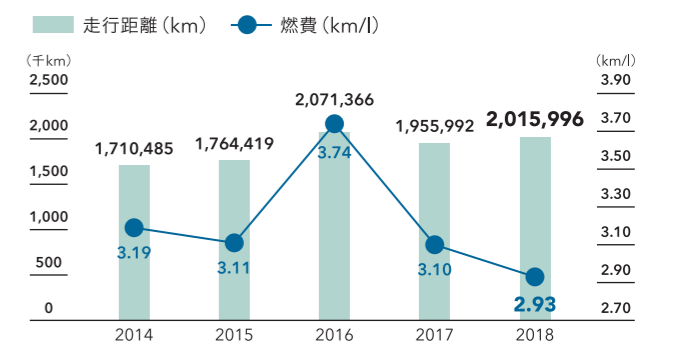
ガソリン使用量



水域への排出量



軽油の燃費



※前年度のサステナビリティレポートにて2017年度の燃費の値に誤りがありました。正しい数値を掲載しております。



# 従業員の人材力向上と、安心して働ける環境整備を進めています

## 基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、あらゆる人の尊厳と人権を尊重し、その重要性和普遍性を認識しています。また、従業員一人ひとりの個性を活かし、ゆとりや豊かさを実感し、生きがいをもって働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

## 活動の目標と実績

活動のテーマ 社員並びに従業員とその家族を含め、お客様のために働くすべての人たちが安心して働ける職場環境づくり

	Plan 2018年度目標	Do 2018年度実績	Check 結果	Action 2019年度目標
リヴァックス	事故ゼロ			
	休業災害：0件	2件	×	0件
	不休災害：0件	0件	○	0件
	物損事故：5件未満 (2017年度比50%削減)	18件	×	9件以下 (2018年度50%減)
	人身事故：—	1件	—	—
事故防止	パトロールの実施：月1回	月1回	○	パトロールの実施：月1回
	快適な職場づくり 社内一斉清掃の実施：2回	2回	○	社内一斉清掃の実施：2回
リリース	事故件数の削減			
	—	休業災害：0件 不休災害：0件 物損事故：6件	—	3件以下 (2018年度50%減)
ダイキョウクリーン	事故件数の削減			
	—	休業災害：0件 不休災害：0件 物損事故：2件	—	1件以下 (2018年度50%減)
大栄	事故件数の削減			
	—	休業災害：2件 不休災害：2件 物損事故：17件	—	10件以下 (2018年度50%減)
大協	事故件数の削減			
	5件未満	休業災害：0件 不休災害：2件 物損事故：10件	—	5件以下
グッドホールディングス	情報セキュリティ事故：—	—	—	20件以下
	システム障害：—	—	—	深刻／重度：0件 軽微障害：20件以下
	36協定違反：—	—	—	0件
	有給休暇取得日数：—	—	—	5日以上 100%

## 労働安全衛生の取り組み

### リスクアセスメント／ヒヤリハット

毎年すべての作業工程におけるリスクを洗い出し、対策を講じています

リヴァックスでは、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントを行っています。2018年度は572件の危険源を抽出し、その中からリスクポイントの高い危険源を

118件特定し、リスク管理を実施しました。

リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する(例：安全柵の設置)などハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策をとっています。また、事故にはならなかったものの、ヒヤリとしたことやハットしたことを抽出するヒヤリハットも常時行っており、2018年度は180件のヒヤリハットを抽出し、リスクアセスメントを実施しました。

## ドライブレコーダーの活用

### 収集業務の全車両に搭載し、事故を未然に防ぎます

大栄と大協では、収集業務で使用する全車両にドライブレコーダーを車両前後に搭載し、ドライバーの運転を管理しています。ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立っています。



ドライブレコーダーの映像

## 酸素欠乏及び硫化水素中毒対策

### 保護具着用訓練を毎月実施しています

有機性廃棄物の処理をするリヴァックスでは、廃棄物から発生する硫化水素中毒や、汚泥貯留槽に入る時に起こる酸素欠乏は大きな危険源です。貯留槽のメンテナンスを行う処理センターでは、毎月エアラインマスクをはじめとする保護具着用の訓練を実施し、事故の未然防止に努めています。

## 環境・安全に対する教育

### 安全管理及び廃棄物管理者研修を行いました

廃棄物に関する基礎知識の習得、環境保全及び労働安全に対する意識付けを目的とし、関連業務に従事する従業員を中心に2018年3月に安全管理及び廃棄物管理者研修を行いました。また、資格の保有が必要な業務や高いリスク管理能力が求められる部門の従業員には、専門教育としての研修提供や資格の取得を推進しています。

## 交通安全運転講習

### 安全講習を受講し事故防止に取り組んでいます

当グループは全体で約130台の業務車両を保有しております。事業を行う上で、「安全」は最優先事項であり、グループをあげて交通事故防止に取り組んでおり、安全運転を徹底するための教育の一つとして、外部の講習を受講し、事故の実例や普段見落としがちな危険について学んでいます。



## 5S活動の推進

### 「整理・整頓・清掃・清潔・躰」

きれいな職場を保つことが労働安全衛生につながるの考えのもと、これまでの3S活動に加えて、5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進しています。備品や工具類の使用頻度基準を定め、それをもとに必要な数及び保管場所を決め、誰が見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、さまざまな手段を講じています。これらの活動は、仕事に使う備品や道具を探し回るような無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。



人事に関する取り組み

人事制度

「年功型」と「成果型」に加え、「技能・知識型」を調和させた人事制度を運用しております

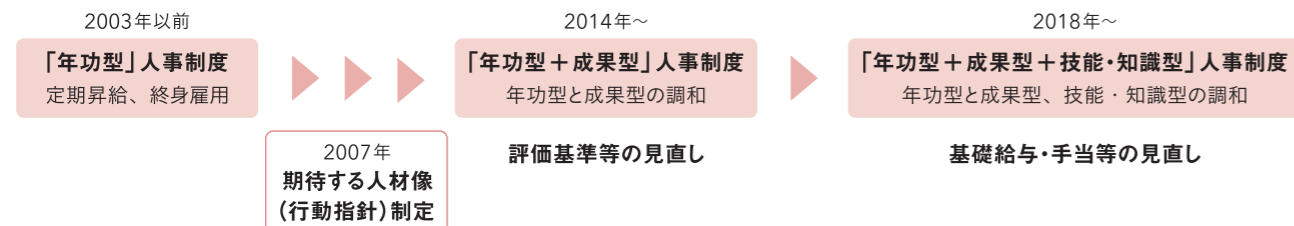
当社グループでは、社員が安心して働くことができ、かつ取り組んだ仕事の成果が正当に評価される人事制度をめざしております。人事制度は、社内外の環境の変化に適応し、その時の状況に合ったものに変化させていくことが大切であると考えております。

2013年度までは各社が独自の人事制度を運用しておりましたが、新しい事業が生まれる中で、まじめに頑張る人やチャレン

ジする人を応援し働きがいを感じられる制度をめざし、2014年度に大栄と大協において人事制度を見直し、「年功型」と「成果型」を調和させたグループ共通の人事制度を導入いたしました。

さらにグループ各社の今後の成長や展開を踏まえた上で、多様な人材の活躍に対して正當かつ柔軟に処遇・評価を行うことを目的に、人事制度の見直しを行いました。給与体系の考え方を整理し、「年功型」と「成果型」、さらに「技能・知識型」と3つの観点から調和させた制度で、有資格者や専門的な知識を有する社員には、それに見合った手当を支給するなどの見直しを行い、2018年度から新たに運用を開始いたしました。この制度により、2018年度は25名の方が資格を取得いたしました。

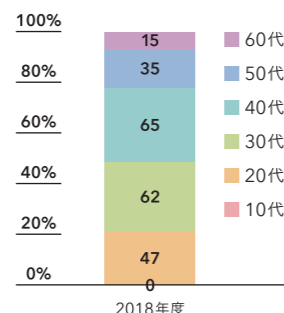
人事制度の変遷



人事関連データ

種類	年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
社員	(名)	136	141	143	145	161	198
アルバイト	(名)	51	55	52	50	57	57
従業員数	(名)	187	196	195	195	218	255
女性従業員比率	(%)	6.1	9.7	13.6	14.7	15.2	11.4
女性役職者比率	(%)	7.9	8.3	8.3	7.9	9.3	2.0
社員平均年齢	(歳)	40.0	39.3	39.0	31.3	38.2	46.3
社員平均勤続年数	(年)	13.0	12.6	12.2	7.4	8.7	9.3
社員離職率	(%)	7.1	6.3	8.7	8.2	7.7	7.6

社員の年齢構成 (人)



2018年度 研修プログラム

種類	対象者
新入社員研修	新卒入社社員
中途社員研修	中途入社社員
人事考課研修	役職者
コンプライアンス研修	役職者
ハラスメント研修	グループ会社 全社員
インサイダー研修	グループ会社 全社員

「資格取得支援」の活用

研修や資格取得の助言を行い、スキルアップを積極的に支援しています

当社グループは、働く人ひとりひとりが個々の能力を高め、多様に化する社会において、社会が抱える課題を自律的に解決できる人材の育成が大切だと考えております。

年に2回の人事考課面談では、将来のキャリアアップにつながるための研修や資格取得の助言を行い、個々のスキルアップを積極的に支援しております。受験希望者には勤務時間の調整や受験費用の一部負担などの支援制度を設けており、また各社の業務内容に基づき資格手当を設けて、資格取得の結果が給

与に反映される制度を導入しております。

入社2年目で経理財務部に所属している社員は、今後の業務に活かすことができるようにと、日々の業務に加えて資格取得に向けて努力を続けておりました。本人の努力はもちろんのこと、周りのサポートも得られたことで努力が実を結び、日商簿記2級の資格を取得することができました。資格取得に向けて頑張る姿に後押しされ、一緒に働くメンバーのモチベーションも上がり、現在は他のメンバーも資格取得をめざしています。



就業時間中の勉強会で、試験対策テキストではわからない実務との繋がりを教えてもらいました。現在では担当範囲が増え、知識を活かせるやりがいがある仕事に取り組んでいます。

安心して働ける環境づくり

ワーク・ライフ・インテグレート

ライフイベントにあった制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

当社グループでは、性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めております。

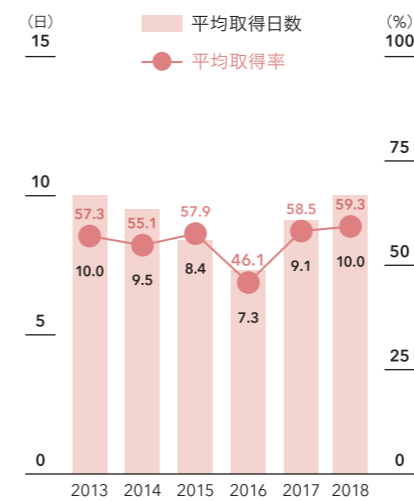
また、2018年度からは、「働き方改革」の一貫として、勤怠管理システムを当社グループで導入いたしました。勤怠管理システムの導入により、残業時間や有給休暇などを効率的に管理できるようになりました。

これにより、従業員本人が自分の勤務状況について確認がで

きるとともに、上司が部下の残業時間などをリアルタイムで確認・把握できるようになったことで、適宜仕事の割振りや配分を調整することなどが可能となり、結果的に残業時間の低減につながっております。

また、従業員のワーク・ライフ・インテグレート(仕事と生活の融合)の実現を重要テーマと捉え、出産や子育て、家族の看護や介護など、多様なライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しております。配偶者の出産時には3日間の特別休暇制度を設けている他、グッドホールディングス、リヴァックス及びリリースでは、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしております。

有給休暇取得状況



主な支援制度

制度名	制度の内容	2018年度利用者
産前産後休業制度	出産前及び出産後において一定の期間で休業が可能です	1名
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで(最長1歳6ヶ月まで)休業が可能です	1名
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	1名 (該当者1名のうち)
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	0名
ボランティア休暇制度	ボランティア活動に従事する社員に2日以内の特別休暇を付与します	0名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	延べ14名

制度にない人事の取り組み

「子連れ出勤」の実施



本人の声  
仕事のブランクをあげたくないという私の希望を聞き入れ、早期の仕事復帰を実現していただけて感謝しています。

※「手代よし」…働く人の幸せ・成長を応援する

乳児を預けられる保育園が見つからずに、仕事復帰ができずに困っている社員がおり、会社として何か手助けできる手段はないかと検討した結果、「子連れ出勤」を実施しました。制度化されているものではありませんでしたが、本人にとっても会社にとってもメリットがあると判断し、実施することになりました。

事前に、各方面に子連れ出勤について相談をしたところ、「その前にまずは制度をつくりなさい」というのが大方の意見でした。しかし、「制度が出来上がるのを待っている、育児休業期間もあけてしまう。今、このタイミングでなければ意味がない」ということで、受け入れる側の社員の意見も聞きつつ、スピーディーに実現に至りました。

実際、赤ちゃんを受け入れてみると、マイナス面はほとんど現れず、むしろ社員たちは赤ちゃんに触れ合うことができ、喜んでくれていたようでした。

当社の経営理念として掲げている、「手代よし」\*が実現できたエピソードであり、今後も従業員からの要望と会社の考えが一致すれば、柔軟に対応できる会社でありたいと考えています。

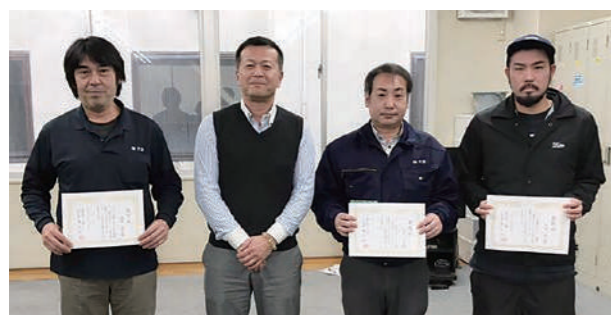
永年勤続勤続者表彰

功績を称え、  
5名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績を称え、永年勤続者として表彰しています。

■ グループ6社永年勤続者  
(2018年度)

勤続年数	対象人数
30年	0名
20年	2名
10年	3名
計	5名



ストレスチェック

職場環境の改善に努めています

従業員50名以上の企業に年に一度実施することが義務づけられたストレスチェックを、大栄の正社員・アルバイトも含めた59名に対し実施しました。

今後も法令を順守することはもちろん、継続して実施することで、従業員が自分自身のストレス状況に気付くきっかけをつくり、集団的に分析した検査結果を職場環境の改善につなげていきます。

■ 大栄 ストレスチェック  
実施概要2018

実施期間：2018/9/10～2018/9/21

対象者	受検者
正社員	41名
嘱託社員	3名
アルバイト	15名
合計	59名

従業員持株会制度／  
ストックオプション(新株予約権)

経営の関心・向上意欲を高めるとともに  
福利厚生を充実を図っています

グループ従業員の福利厚生の増進や経営への参加意識の向上を図ることを目的として、従業員持株会制度を導入しています。また、2018年度は全従業員に対し(役員及び短期間勤務のアルバイト・パート除く)ストックオプションを配布いたしました。

健康診断

産業医と提携し従業員の健康管理を行っています

アルバイトを含めたグループ全社員を対象に年に1回(深夜勤務のある社員は半年に1回)健康診断を実施しています。健康診断の結果がC～E判定の社員については、専属の産業医に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受け、これらの情報を提供し社員の健康管理に対する意識を高めるとともに、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなど、健康支援に努めています。

採用活動

30名が新たに仲間に加わりました

事業拡大に伴う人員増強として、2018年度は新卒採用者6名、中途採用者24名の仲間を迎え入れました。2019年度入社の新卒採用では、5名が4月に入社しました。また、アルバイトの活躍支援にも力を入れており、2018年度は18名のアルバイトを正社員に登用しました。



2019年度入社式



企業市民として、地域社会との交流や  
次世代の育成に取り組んでいます

基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、事業を通じて社会の持続可能な発展に貢献するとの考え方に基づき、地球環境としての課題解決への貢献、地域との共生、地域発展への貢献という観点から社会貢献活動を推進しています。

活動の目標と実績

活動のテーマ	社会に安心、信頼される企業づくり	Plan	Do	Check	Action
		2018年度目標	2018年度実績	結果	2019年度目標
リヴァックス		外部評価の実施 すべてのステークホルダーから安心、信頼されるための継続的な取り組み	・トップダイアログ開催 ・サステナビリティレポートの発行 ・環境学習の実施 ・施設見学の受入	○ ○	外部評価の実施 継続的な実施
リリーフ		地域交流の実施 社会活動の実施	・子ども農業塾に参加 ・サステナビリティレポートの発行 ・生前整理セミナーの実施 ・合同慰霊祭の開催	○ ○	継続的な実施 継続的な実施
ダイキョウクリーン		地域社会への貢献	・子ども農業塾に参加 ・サステナビリティレポートの発行	○	継続的な実施
大栄		地域社会への貢献	・子ども農業塾に参加 ・サステナビリティレポートの発行	○	継続的な実施
大協		地域交流の実施 社会活動の実施	・ソフトボール大会に参加 ・自治会地域清掃の参加 ・サステナビリティレポートの発行 ・清掃活動の実施(週1回) ・小学校へサツマイモ苗を寄贈	○ ○	継続的な実施 継続的な実施
グッドホールディングス		地域社会への貢献	・子ども農業塾に参加 ・チャイルド・ドリームの実施 ・サステナビリティレポートの発行 ・各種賞への応募	○	継続的な実施

社会貢献活動

子ども農業塾の開催

社員がスタッフとして、子どもたちの  
農業体験・学習をサポートしています

西宮市内の小学校4年生から6年生を対象に、半年にわたって市内の甲山農地で土づくりや米づくりを体験する「子ども農業塾」を行っています。「食」の基となる農業体験を通して、農業の楽しさや作物を育てることの難しさ、自然循環の大切さを学んでもらおうと、2011年度から大栄が主催し、運営事務局のLEAFと協働で開催しています。

2014年度からは、新入社員に対する社員教育の一環として、グループ全体で取り組んでいます。

2018年度は3Rについて考える機会をもってもらおうと、リリーフやリヴァックスの工場見学を行いました。



2018年度子ども農業塾 1年間スケジュール表

- 第1回 田植え・野菜植え付け・玉ねぎ収穫
- 第2回 田んぼの生きもの観察・夏野菜収穫・川遊び
- 第3回 稲刈り・冬野菜植え付け・活動ポスター作り
- 第4回 さつまいも収穫・カレー作り
- 第5回 工場見学・稲わらリース作り・修了式





### 施設見学の受け入れ

さまざまなステークホルダーに公開し、  
廃棄物処理への理解を促進しています

リヴァックスでは、お取引のある排出事業者様をはじめ、学生や地域の方にも処理施設を公開しています。2018年度は、449名113団体（うち取引外1団体）が見学に来られました。



### 地域清掃

地域の美化活動に貢献しています

毎年、各事業会社にて自治組織主催の地域清掃に参加しています。2018年度は、リヴァックスと大栄が鳴尾浜産業団地の自治組織主催の清掃活動に参加し、近隣のごみ拾いと草取り、周辺道路の清掃を行いました。今後も当活動を継続し、地域の美化活動に貢献していきます。



### JICA研修の受け入れ

海外の廃棄物に関する課題解決を支援しています

独立行政法人国際協力機構（JICA）関西では、各国の廃棄物にかかわる自治体職員の行政能力向上を目的とした研修をされています。2018年度は6月と11月に研修員の受け入れに協力しました。今回は、大栄のごみ収集現場の視察や作業における危険源とそれらの対応策を紹介しました。



### 献血活動の普及・啓発

献血推進活動を応援しています

大栄では、社会貢献活動の一環として、日本赤十字社の献血推進活動を応援しています。2018年度は、全事業会社の従業員に参加を募り、3月に献血活動を行いました。献血受付者数は50名以上、献血者は33名とたくさんの従業員が参加しました。献血人口の減少の深刻化が懸念される中、これからも献血活動の更なる普及・啓発を支援する「献血サポーター」として積極的に協力していきます。



### 企業スポーツ活動

セーリングチームが各種大会に出場しています

グッドホールディングスグループでは、2013年にセーリングチームを創部しました。以降、関西実業団ヨット選手権で4連覇を達成し、全日本実業団ヨット選手権でも3年連続入賞するなど着実に実績を積み上げています。これからもさらに良い成績をめざすべく、チーム一丸となって取り組みを続けてまいります。



#### 2018年度成績・活動報告

- 6月【国際スナイプ級 関西選手権】  
河野・田辺コンビ 3位入賞  
森谷・山本コンビ 5位入賞
- 7月【関西実業団ヨット選手権】  
チーム総合優勝
- 8月【全日本スナイプ級ヨット選手権】  
森谷・山本コンビ 8位入賞  
河野・田辺コンビ 19位
- 9月【福井しあわせ元気国体】成年男子470級  
森谷（奈良県代表）15位  
山本（石川県代表）20位  
社内試乗会開催
- 10月【第64回全日本実業団ヨット選手権】  
チーム総合優勝

第8回神戸マラソンに社員ランナーが出場しました

2018年11月に開催された「第8回神戸マラソン」にて、約2万人のランナーが神戸の街を駆け抜けました。グッドホールディングスグループからは、男女合わせて8名の有志ランナーが完走にチャレンジしました。



## グッドホールディングスグループは チャイルド・ドリームの活動を支援しています



### Child's Dreamについて

1990年代後半に計画経済から市場経済の道を歩み始めたカンボジア、ベトナム、ラオスなどメコン川流域の国々。「東南アジア諸国連合（ASEAN）」のこれらの国々は、大きく変化する社会・経済環境の中で、確実に発展を遂げています。しかし、一方で地方との格差は急激に拡大しており、経済的不平等や内戦、政情不安などにより複雑な問題が絡み合い、いまだ深刻な人道危機が発生しています。人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子どもたちのために2003年より活動を始めた団体が「Child's Dream」です。子どもたちの医療・教育環境を改善すべくコミュニティとの協働を通して目的を達成することを目標に日々活動に取り組んでいます。



多くの児童が教育を受けられるよう学校を再建設しました

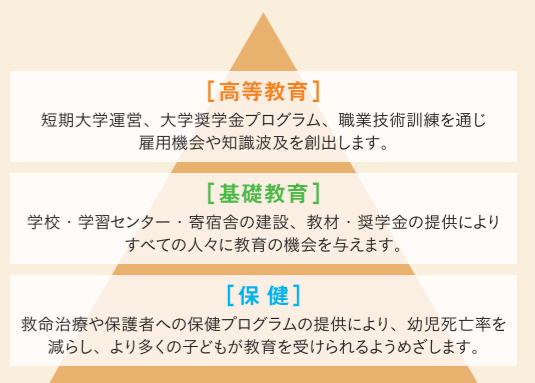
### グッドホールディングスグループが支援する理由

当グループでは、「五方よし」を経営理念として売り手と買い手がともに満足し、社会貢献もできる会社をめざしております。また従業員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感すること、さらに次世代へ向けて持続可能な社会の構築を目標にさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。社会貢献においては国内のみならず、世界の人々の豊かな社会の実現にも積極的に貢献していきたいという思いがあります。

株式会社リリーフでは、おかたづけサービスで回収した不用品（家具、日用品など）を海外で再び生かす取り組みを2013年よりはじめました。これまで東南アジアを中心に活動してきましたが、都市部から離れた地域を訪問するにつれて、さまざまな社会問題や経済格差を目の当たりにしました。そのような問題の将来的な解決のため教育機会の提供で子どもたち・青少年の自立を支援する「Child's Dream」に共感し、グループ全体の売上の一部を寄付することとしました。

### Child's Dreamの活動について

Child's Dreamの活動には「保健」「基礎教育」「高等教育」があります。中でも教育は、貧困撲滅、持続的経済成長への大きな原動力です。理解力や正しい判断力を鍛え、文化的平和や深い社会の繋がりの基盤を構築することができ、所得獲得および質の高い雇用機会をうみだすことができます。また、多くの子どもたちが健康問題を理由に十分な教育を受けることができない現状にあるため、Child's Dreamでは救命治療や保護者への保健プログラムを提供し、より多くの子どもが教育を受けられることができるようめざしています。



### Child's Dreamの活動実績（2018年時点）

- 保健**
  - ・4,845人へ薬物予防のための意識啓発を行いました。
  - ・5,953人が健康と衛生について学びました。
  - ・1,538人の子どもたちが手術を受けて命が助かりました。
- 基礎教育**
  - ・247校の学校を建設しました。
  - ・659人の学生に進学のための奨学金を支援しました。
  - ・138,599人の学生と教師へ文具を提供しました。
- 高等教育**
  - ・6,394人の学生に職業訓練の指導をしました。
  - ・427人の学生に大学進学のための奨学金を給付しました。

お客様とのコミュニケーション

展示会への出展

多くのお客様とお会いできる機会をつくります

事業内容や、CSRの取り組みを知っていただくだけでなく、多くの方々が抱えている現状のさまざまな課題をお聞きするため、グループ各社がさまざまな展示会に出展しております。

2018年度に出展した主な展示会

開催月	出展者	名称
2018年 6月	リリーフ	エンディング産業展2018
	リヴァックス	ドリンクジャパン
2018年11月	ダイキョウクリーン	クリーンEXPO2018



エンディング産業展2018

クリーンEXPO2018

社長ホットラインの設置

お客様からの大切なお声をダイレクトにお伝えいただけます

お客様のみならず、取引先様からのご意見や気持ちは大切なお声として頂戴するために、グループ各社の社長へ直通するメールフォームをグッドホールディングスグループ全社のホームページで公開しております。寄せられたご意見は社長含め、各部門へ共有され今後のサービス向上に役立ててまいります。

合同慰霊祭の開催

故人様へ寄り添う心を忘れずに

リリーフでは、故人様への供養とご遺族の方々の気持ちに寄り添うため、年二回合同慰霊祭を行っています。遺品整理作業で故人様の生前の生活に関わる中、慈しみの心で供養したいという思いから始まりましたが、今ではスタッフ自身も多くの故人様と関わる日々の大切な一つの区切りとしてご供養を捧げております。



セミナーの開催

啓蒙活動に努めています

当グループでは、お客様や消費者の方が環境や社会問題に対して、関心・知識をもつことが大切と考えております。そのため、各社で定期的に情報を発信するとともに、みなさまが相談できる場の提供を行っております。

2018年度に開催したセミナー

開催月	開催者	名称
2018年 6月	リリーフ	エンディング産業展2018
2019年 2月	リヴァックス	第13回廃棄物管理実務者セミナー
2019年 3月	リリーフ	京都伊勢丹セミナー
		野村證券セミナー



京都伊勢丹セミナー

野村證券セミナー

メディア出演・掲載実績

当グループ各社の取り組みを各メディアにて取材、掲載いただいております

リリーフ

- 2018年 6月 月刊廃棄物6月号 掲載
- 日経終活見聞録 掲載
- 2018年 7月 日経ジャーナル 掲載
- 2018年 9月 東京夕刊フジ 掲載
- 2018年11月 循環とくらしNo.8 掲載
- 2018年12月 テレビ東京「たけしのニッポンのミカタ!」出演
- 2019年 3月 週刊文春 掲載

ダイキョウクリーン

- 2018年 5月 クックビズ総研 総合メディア 掲載

大栄

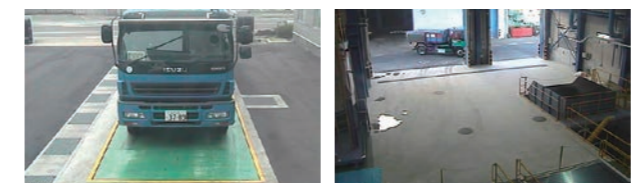
- 2018年 8月 読売テレビ「関西情報ネットten.」出演
- 日本テレビ「news every.」出演

消費者課題への取り組み

ウェブカメラの設置

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

リヴァックス施設内にウェブカメラを設置し、ホームページにてリアルタイムの映像を配信しています。遠隔地からでも、廃棄物の搬入や処理状況をご確認いただき、処理の透明性を実現しています。



①廃棄物の搬入・計量場所

②乾燥施設

事業継続計画 (BCP) の取り組み

BCP災害対策本部を設置しました

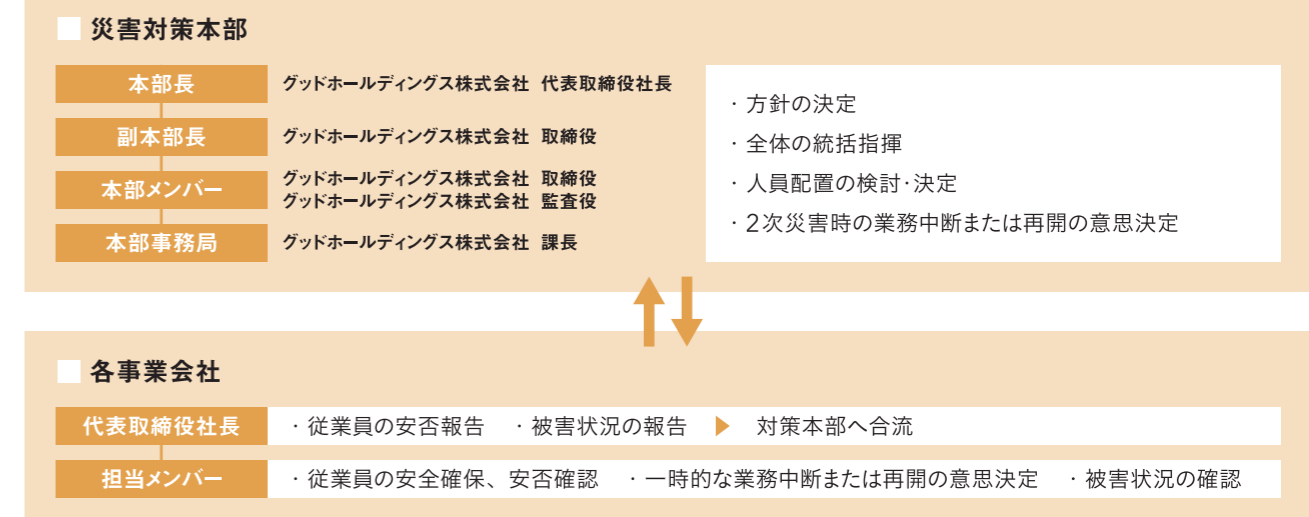
当グループでは、大規模地震ならびに大型台風の発生を優先対応リスクのひとつとして位置付け、被害未然防止のために従業員(とその家族を含む)の生命と安全を確保し、『地域社会の早期復旧』と『顧客の事業活動』に貢献すべく、可能な限り速やかに事業を再開し、継続できるようBCP災害対策本部を設置いたしました。

災害発生時の初動対応

大規模災害が発生した際に、従業員が冷静な判断を行うことができるよう、初動対応や安否報告の手順などを記載した従業員携行カードを全員に配布しております。また、年に一回BCPの重要性を周知するための教育・訓練を実施し、BCPマニュアルの定期的な見直しを行っています。

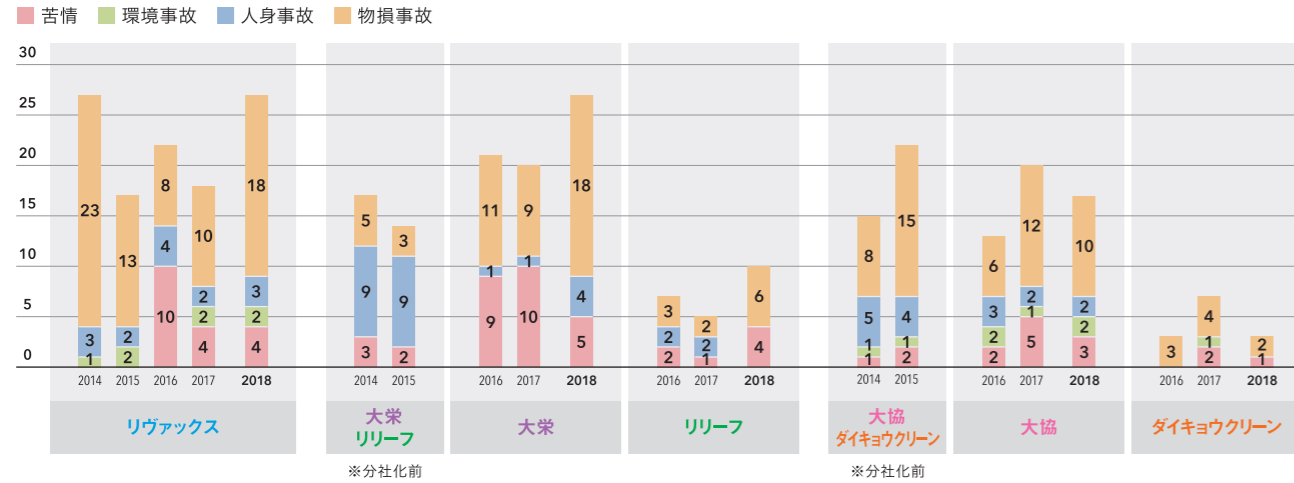


組織体制と主な役割



苦情・事故

2018年度の苦情・事故は84件(苦情17件・環境事故4件・事故63件)で、昨年度70件(苦情22件・環境事故4件・事故44件)と比較し、増加しました。



大協

件数	内容	原因	対策
苦情3件	コンテナ設置作業による壁の接触が見受けられた	目印をつけるなどの準備が不足していた	目印を設置場所に書き、運転手に周知した
	車線に対して逆駐車をしていた	作業の効率や時間短縮を優先しすぎた	逆駐車にならないようにコースの改善を行った
	家財撤去作業時に、撤去する物を誤ってしまった	見積担当者から作業担当者への伝達と確認が不足していた	作業時に見積担当者またはお客様に確認を徹底した
環境事故2件	塵芥車両の荷室から煙が上がっていた	可燃性ガスが抜け切れていない不燃物が混入していた	積込時の内容物の確認を徹底した
	塵芥車両の荷室から出火した	可燃性ガスが抜け切れていない不燃物が混入していた	クリーンセンターへ引火性の高い物の排出方法を市民の方へ周知をお願いした
人身事故2件	片側1車線道路で対向車のセンターラインはみ出しによる接触事故をした	避けきれなかった	事故内容を周知し、余裕をもって運転するよう注意喚起した
	車両から降車した際につまずき、電柱に接触し頭部が切れた	周囲の安全確認を怠った	周囲の安全確認を行ってから降車を周知した
物損事故10件	停車中の車両を避けた際、側溝に掛かる石段に乗り上げ接触した	前輪が通過できたので後輪も通過できると思い込んだ 安全確認不足	安全確認を徹底することを指導した
	一方通行道路で停車中の車両の横を通過する時に停車中車両に接触した	周囲の安全確認を怠った	助手を含め、目視による確認の徹底するように周知した
	左折時に左後方に気を取られ、自車右前方のウイカーを破損させた	目視での周安全確認を怠った	安全確認を徹底することを指導した
	バックで進入中に、左ミラーを電柱に接触させた	周囲の安全確認を怠った	安全確認を徹底することを指導した
	バックで進入中に、門のブロックに接触した	周囲の安全確認を怠った	安全確認を徹底することを指導した
	右折時に左に寄りすぎて左ミラーを接触した	普段より大きい車両に乗り、車幅の認識不足だった	車両の特性や大きさを理解し乗り降することを周知した
	バックで進入中に左後方のポールに接触した	周囲の安全確認を怠った	安全確認を徹底することを指導した
	信号待ちをしており、隣の車両が進んだため前方確認をせず発進し、前方車両に接触した	運転中は業務に集中し、安全確認を徹底することを指導した	考え事をしていて注意が散漫していた
	バックで進入中に自転車置き場の屋根に接触した	周囲の安全確認を怠った	安全確認を徹底することを指導した
	洗面台の上のゴミを収集中に、洗面台部分に物を落さず破損させた	高所の物を取る際に、周りの確認ができていなかった	高所の物を取る際は台を使うなど、安全を確保した状態で作業するように指導した

ダイキョウクリーン

件数	内容	原因	対策
苦情1件	あらかじめ連絡していた作業時間よりも早く作業をした	似た名前の店舗があり、順番を間違えてしまった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
環境事故0件	-	-	-
人身事故0件	-	-	-
物損事故2件	バックで駐車中、トラック後方と敷地内のポールが接触した	後方の確認を怠った	駐車を行う際は、後方確認を徹底し運転操作を行うように指導した
	走行中、ガードレールに接触した	疲れを感じていたが、時間を優先し運転してしまった	社内講習会を行い、疲れを感じたときは休憩を取るよう指導した

大栄

件数	内容	原因	対策
苦情5件	お客様敷地内で作業員の間を猛スピードで走行していった	本人にスピード超過の意識はなかった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
	作業中の車両が路側帯の中に停車したため注意したところ口論となり怖い思いをした	市民の方へのサービスを提供しているという意識が足りていなかった	視線や表情などで周囲へ与える印象が変わることを意識して行動するように指導した
	一方通行をバックで進入し収集を行っていた	作業の効率や時間短縮を優先しすぎた	苦情内容を周知し、注意を喚起した
	一方通行をバックで進入し収集を行っていた	作業の効率や時間短縮を優先しすぎた	バックで進入している所の収集ルートを変更した
	停車中の収集車の横を通り過ぎる際に運転手に大声で怒鳴られた	市民の方へのサービスを提供しているという意識が足りていなかった	視線や表情などで周囲へ与える印象が変わることを意識して行動するように指導した
環境事故0件	-	-	-
人身事故4件	カゴ車の積込作業時にカゴ車の一部に指を挟んだ	普段別業務に従事している人が作業したため、注意を怠った	安全な作業実施のため、持ち方や注意点を現場監督者より指導した
	収集作業中自社従業員に熱中症の症状がみられた	こまめな水分補給など対策を怠った	熱中症対策のため、保冷剤やクーラーボックスを手配した
	大型車両から降車時に、膝を痛めた	ステップを使わず飛び降りた	事故内容を周知し、ステップを使用するよう注意を喚起した
	大型車両から降車時に、踵を痛めた	ステップを使わず飛び降りた	事故内容を周知し、ステップを使用するよう注意を喚起した
物損事故18件	バックで進入中に天井に接触した	周囲の状況確認と安全確認を怠った	周囲の安全確認と誘導の実施の周知した
	処分場にてテールゲートを下ろし忘れ出口に接触した	周囲の安全確認を怠った	発車前の確認作業を徹底するよう周知した
	敷地内から出る際、ハシゴに気づかず接触した	周囲の安全確認を怠った	周囲を確認しゆとりある運転を心がけるよう周知した
	パッカー車に空き缶を積込む際、空き缶が跳ね返り、通行していた車両に接触した	周囲の安全確認を怠った	周囲を確認し積込作業を行うよう周知した
	駐車車両を交す際、接触した	周囲の安全確認を怠った	無理に交わさず周囲を確認するよう周知した
	駐車場進入の際、発券機にドアを接触した	周囲の安全確認を怠った	周囲を確認しドアの開閉を行うよう周知した
	停車時にサイドブレーキが甘く、車両が動きステーションに接触した	周囲の安全確認を怠った	車両によりブレーキの効き方に差がある事を理解し、確認作業を徹底するよう周知した
	自社敷地内にてごみを積込む際、跳ね返ったごみが停車中の車両に接触した	周囲の安全確認を怠った	周囲を確認し積込作業を行うよう周知した
	雨天時にマンホールで滑り、止まり切れず前方車両に接触した	周囲の安全確認を怠った	十分な車間距離を保って走行するよう周知した
	台風による高潮が自社構内に流れ込み、車両が海水に浸かり車両に不具合が発生した	自然災害への対策が不十分だった	不測の災害に対応できるようにBCPなどを見直した
	左右に駐車車両があり、すり抜ける際、タイヤがひずみ車両が傾き接触した	周囲の安全確認を怠った	無理に交わさず周囲を確認するよう周知した
	大型車両とすれ違う際、左に避けた事で左ミラーを電柱に接触した	周囲の安全確認を怠った	狭い道ですれ違う時は一旦停車し安全確認を行うよう周知した
	工事車両があり通行できず、手前で方向転換をした際、民家に接触した	周囲の安全確認を怠った	普段通らない道や方向転換などをやる場合は助手が誘導するよう注意喚起した
	ダストボックスを動かす際、壁に接触した	周囲の安全確認を怠った	ダストボックスを動かす際は1台ずつ確実に動かすよう周知した
	バックで進入中に停車している車両に接触した	周囲の安全確認を怠った	周囲の安全確認を行うよう周知した
	強引に割り込んで進入した際、手前に停車していた車両に接触した	急いでいたため確認せず割り込みをしてしまった	無理に進入せずに周囲の安全確認をするよう周知した
	方向転換の際、民家に接触した	周囲の安全確認を怠った	方向転換をする場合は助手が誘導するよう周知した
	狭路右折時に左前輪を脱輪し、脱出の際、民家に接触した	周囲の安全確認を怠った	狭路の際は助手が安全確認を行うよう周知した

リリーフ

件数	内容	原因	対策
苦情4件	作業時間になってもスタッフが来なかった	作業カレンダーの登録が漏れていた	マニュアルの再周知をおこない社内管理を徹底した(カレンダー登録、システム登録)
	想い出整理バックの供養証明書のお名前不備があった	確認作業を怠った	電話と申込書(書面)にて確認を行い、発行した際は二重チェックをするように指導した
	封筒の糊付けがあまく、ほとんど剥がれた状態でお客様の元へ封書が届いた	封入作業に不備があった	糊付けとセロハンテープで二重に封入するよう指導した
	私道に作業トラックを停車したため、通行の妨げになっていた	挨拶の範囲が不十分だった	作業宅周辺だけでなく、迷惑がかりそうなお宅には作業前に挨拶に行くように指導した
環境事故0件	-	-	-
人身事故0件	-	-	-
物損事故6件	会社構内で駐車を行った際、駐車している車と接触した	雨で視界が悪いにも関わらず、周囲の安全確認を怠った	駐車を行う際は、周りの状況確認を徹底し運転操作を行うように指導した
	倉庫内のカートが地面傾斜により動きだし、作業中の車両へ接触した	カートロックを忘れかけていた	カートが動かないよう、ロックが掛かった状態での設置を徹底するように指導した
	トラックの運転中に生け垣の枝に気付かず、トラックの荷台部分が接触した	周囲の安全確認を怠った	作業員に誘導してもらおうなど、常に周囲を確認しながら運転するように指導した
	前方から来る軽自動車に気を取られてしまい、左側の標識に気付かず接触した	周囲の安全確認を怠った	対向車が来ている際は、減速もしくは停車し、安全が確保されてから発進するように指導した
	電柱手前のポール監視カメラに気付かず接触した	周囲の安全確認を怠った	目線の上にある物に対しても十分に目視を行い、安全確認を徹底するように指導した
	荷物の搬出時に、フローリング床板にキズを付けてしまった	養生作業が不十分だった	大きな家財を搬出する際は、しっかり養生して作業を行うように指導した

リヴァックス

件数	内容	原因	対策
苦情4件	コンテナ下部のバルブの締めが悪く、廃液が漏洩した	社内で使用するためのコンテナを出荷してしまった	・出荷用のコンテナには明確に表示を行い、混合して使用しないようにする ・出荷前保管期間は最長で2週間と定める
	コンテナ設置時、建屋内の追突防止アンクルに接触した	運転手の確認不足	運転手に事実の確認と今後の注意を行う
	コンテナ設置時、後方のアスファルトがコンテナの後輪で削れてしまった	コンテナ重量による凹みと発生リスク説明、対策ができていなかった	・コンテナ設置場所に鉄板を敷くことで予防 ・設置場所の確認を下見手順に追加
	再委託分の電子マニフェストについて終了報告が遅れた	非常事態の対応に追われており、通常時のルール外の対応を行ってしまった	・非常事態であっても通常時の運用を徹底する ・社内ルールよりも取引先(排出事業者)からの依頼を優先する ・運搬終了報告のメールアラートの設定を変更する ・ISO手順書を電子マニフェストの運用とチェックの仕組みを組み込んだ手順に改定する
環境事故2件	処理センター乾燥プラント製品室にて火災	P14にて説明	P14にて説明
	汚泥の運搬中、右折時にコンテナから汚泥が漏洩した	運搬容器の水密性が想定していたよりも低かった	容器にストレッチフィルムを巻いて運搬する
人身事故3件	シャッターをもち上げる際、腰を痛めた	姿勢が不安定だった	事故内容を周知し、注意を喚起した
	コンベヤケースを移動中にケースが手に落下し、右手人差し指と中指が骨折した	レバプロックの掛け方が甘く、ケースが適切に固定されていなかった	・事前に作業工程表を作成・確認し、二人以上で作業前の危険予知の洗い出しを行う ・乾燥業務にかかわる全作業員に玉掛けの資格を取得させる
	走行中のリフトに接触した	・歩行者と運転手が互いにわき見をして前進していた ・狭い通路でリフトと歩行者の導線が混雑していた	・リフト作業中に運転手が他の人と会話する場合は必ず車両を停車させる ・歩行者も会話する際は必ず停止する ・リフトと歩行者の動線を分ける
物損事故18件	信号待ちから発進の際、前の車両に接触した	車間距離が十分に取れていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
	他社のクレーン車からフックが落下し、停車中の自社車両のフロントガラスを破損した	クレーン車運転手の操作ミス	事故内容を周知し、注意を喚起した
	作業中に塩化ビニールパイプを踏み、破損した	足元に注意していなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
	バック時に後方に停車中の車両に接触した	運転手の後方確認不足	事故内容を周知し、注意を喚起した
	コンテナ交換中、車両がコンテナに接触した	周囲の安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
	停車中のトラックのそばを通過する際、車両が接触した	運転手の後方確認不足	事故内容を周知し、注意を喚起した
	駐車場内で切り返しのためバックしたところ、歩行者用通路のポールに接触した	・ポールに気付いていなかった ・雨天のため視界が悪かった ・車両センサーを過信していた	事故内容を周知し、注意を喚起した
	方向転換した際、ショベルカーのブレードが車両に接触した	・狭いスペースで切り返しを行った ・後方の障害物に気を取られ、前方が不注意になった	事故内容を周知し、注意を喚起した
	バックカー車の洗浄中、タンクを持ち上げた際に洗車場の壁に接触し、壁と車両を破損した	周囲の安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
	駐車のため左折した際、車両の左側にあったブロック塀に接触した	普段とは違う駐車の方法をしたため、不注意になった	事故内容を周知し、注意を喚起した
	コンテナ交換中、車両に移送ポンプが引っ掛かったまま前進しポンプが破損した	周囲の安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
	積み込み場から車両が退出する際、シートシャッターが下りてきて車両と接触した	運転手が誤ってシートシャッターをオートに設定していた	シートシャッターのオート機能にロックをかけ、手動操作のみとするよう周知した
	信号待ちの前方車両に追突した	停止中にキャビン内の荷物を確認しようとした際、フットブレーキがゆるんだ	事故内容を周知し、注意を喚起した
	右折による後方ふくらみにより、後方の車両に接触した	前方の障害物に気を取られ、後方確認ができていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
	対向車とすれ違った際、車体を左に寄せたところ、電柱と接触した	対向車に気を取られ、左スペースの確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
	場内で方向転換した際、車両が停車中のショベルカーのバケットに接触した	周囲の安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
	バックで入庫した際、付近の柱に接触した	慣れた場所で誘導員を見ずに行動した	事故内容を周知し、注意を喚起した
	汚泥の引取り場所にて車両をバックさせたところ、コンテナが柱に接触した	運転手が引取り場所について事前確認が十分でなかった	初めての引取りでは、事前に本部から注意事項を聞いておく

ISO26000対照表

	中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ
6.2	組織統治	P01~04、32~34	6.6.4	責任ある政治的関与	P01~02、32~35
6.3	人権		6.6.5	公正な競争	P01~02、32~35
6.3.3	デューディリジェンス	P01、41	6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P01~08、32~35
6.3.4	人権に関する危機的状況	—	6.6.7	財産権の尊重	—
6.3.5	加担の回避	P41~45	6.7	消費者課題	
6.3.6	苦情解決	P34、41~46、49	6.7.3	公正なマーケティング、事実即した偏りのない情報および公正な契約慣行	P32~35、46~53
6.3.7	差別および社会的弱者	P41~45	6.7.4	消費者の安全衛生の保護	P15~36
6.3.8	市民のおよび政治的権利	P41~45	6.7.5	持続可能な消費	P15~36
6.3.9	経済的、社会的および文化的権利	P41~45	6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決	P21~24、46~54
6.3.10	労働における基本的原則および権利	P41~45	6.7.7	消費者データ保護およびプライバシー	P34
6.4	労働慣行		6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	P34、49~50
6.4.3	雇用および雇用関係	P01~02、41~45	6.7.9	教育および意識向上	P36、42~47
6.4.4	労働条件および社会的保護	P41~45	6.8	コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展	
6.4.5	社会対話	P32~36、41~45	6.8.3	コミュニティへの参画	P05~06、27~30、46~50
6.4.6	労働における安全衛生	P41~45	6.8.4	教育および文化	P41~43、46~48
6.4.7	職場における人材育成および訓練	P42~43	6.8.5	雇用創出および技能開発	P11~12、41~45
6.5	環境		6.8.6	技術の開発および技術へのアクセス	P15~17
6.5.3	汚染の予防	P18~20、37~40	6.8.7	富および所得の創出	P27~30
6.5.4	持続可能な資源の利用	P04~08、10~12、18~20、37~40	6.8.8	健康	P18~20、37~40
6.5.5	気候変動の緩和および気候変動への適応	P37~40	6.8.9	社会的投資	P46~50
6.5.6	環境保護、生物多様性、および自然生息地の回復	—			
6.6	公正な事業慣行				
6.6.3	汚職防止	P01~02、32~35			

▶ **編集方針** お客様、地域住民の方々、従業員などステークホルダーのみなさまに、グッドホールディングスグループがめざす姿や持続的な成長や企業価値の向上への取り組みについて、より一層ご理解いただけるよう、サステナビリティレポートを発行いたしました。本年度は、2019年4月に入社した新入社員による制作を試み、「新人目線で当社グループを捉え、分かりやすくお伝えする」ことをテーマに何度もミーティングを重ねました。さらに、グループの事業と社会課題との関係やCSR活動の取り組みについての理解を深めつつ、新しい視点とアイデアを込めた報告書をステークホルダーのみなさまにお届けしたいとの想いで制作いたしました。なお、本報告書ではISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目からそれぞれグッドホールディングスグループに関連のある項目を整理し、「経営・ガバナンス(①組織統治、⑤公正な事業慣行)」「環境(④環境)」「人権・労働慣行(②人権、③労働慣行)」「コミュニケーション(⑥消費者課題、⑦コミュニティへの参画及びコミュニティの発展)」の4項目で編集しています。

▶ **対象組織** グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄、株式会社大協(報告書は各社のホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載としています)

▶ **対象期間** 2018年度(2018年4月~2019年3月) ※活動内容に一部、2019年度を含む。

▶ **発行月** 2019年9月(次回:2020年9月予定)

▶ **対象分野** 事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

▶ **参考ガイドライン** 社会的責任に関する国際規格「ISO26000」/ GRIガイドライン第4版/ 環境省「環境報告ガイドライン」



捉える、応える、超えていく

グッドホールディングス株式会社

株式会社リヴァックス

株式会社リリーフ

株式会社ダイキョウクリーン

株式会社大栄

株式会社大協

お問い合わせ先

グッドホールディングス株式会社 経営サポート部

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町14-5 太陽生命西宮ビル3階

TEL : 0798-34-3425 E-mail : csr@goodhd.co.jp

